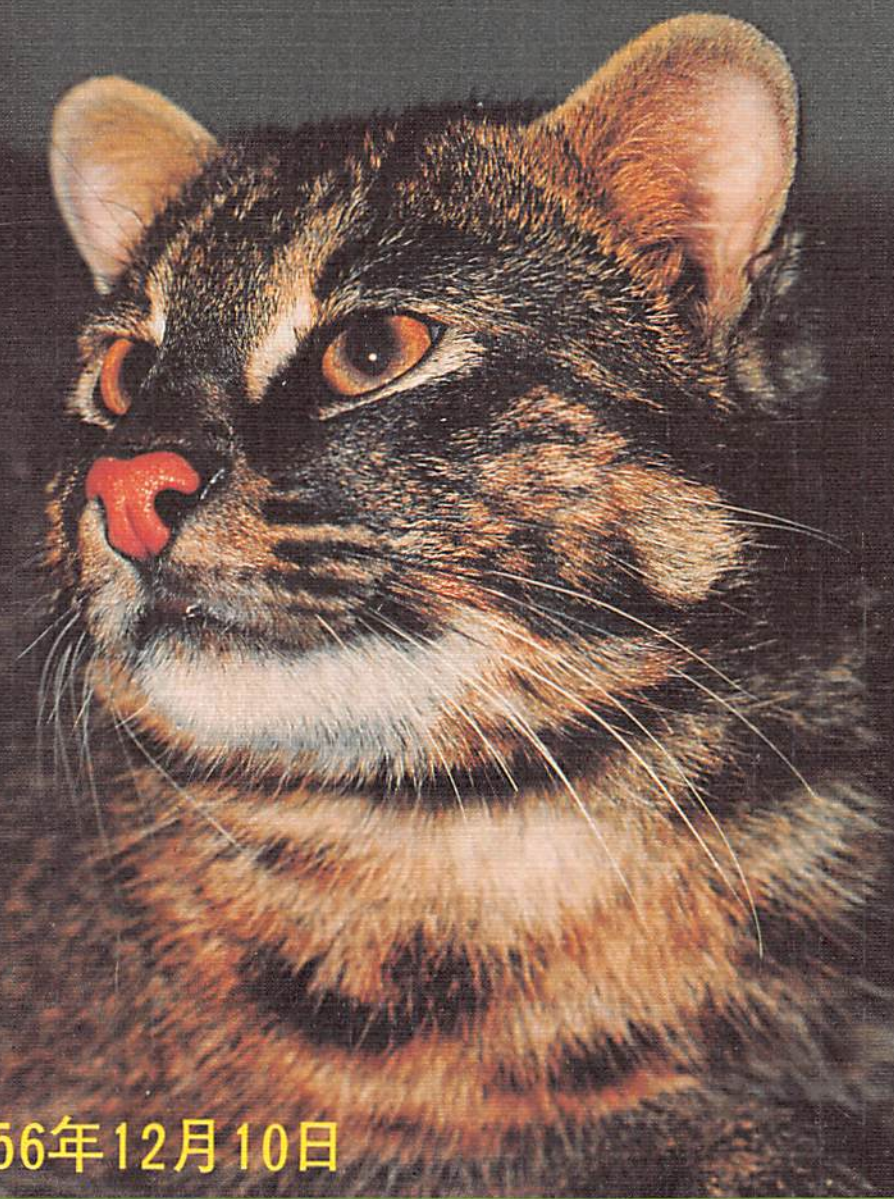


開園10周年

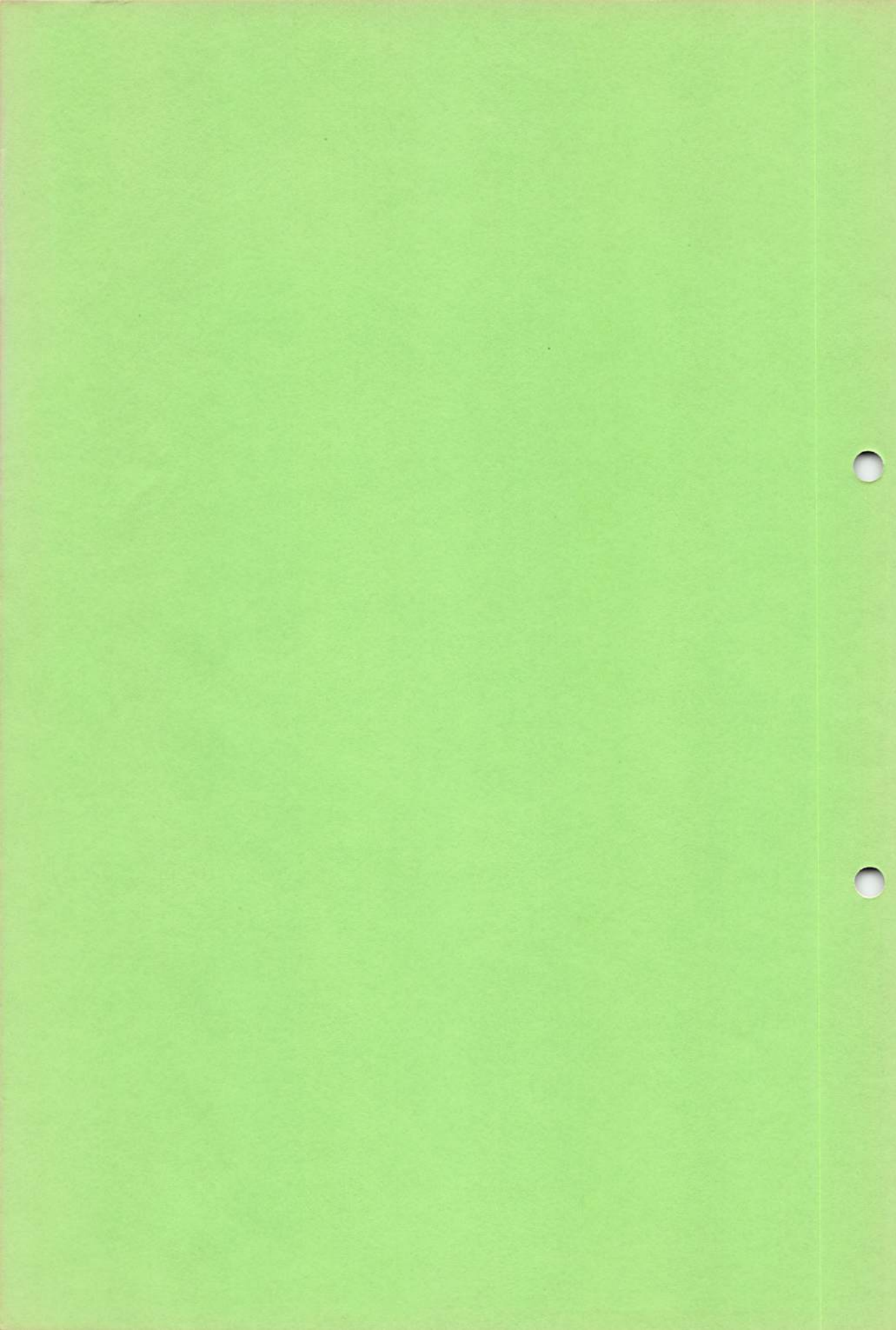
記念誌

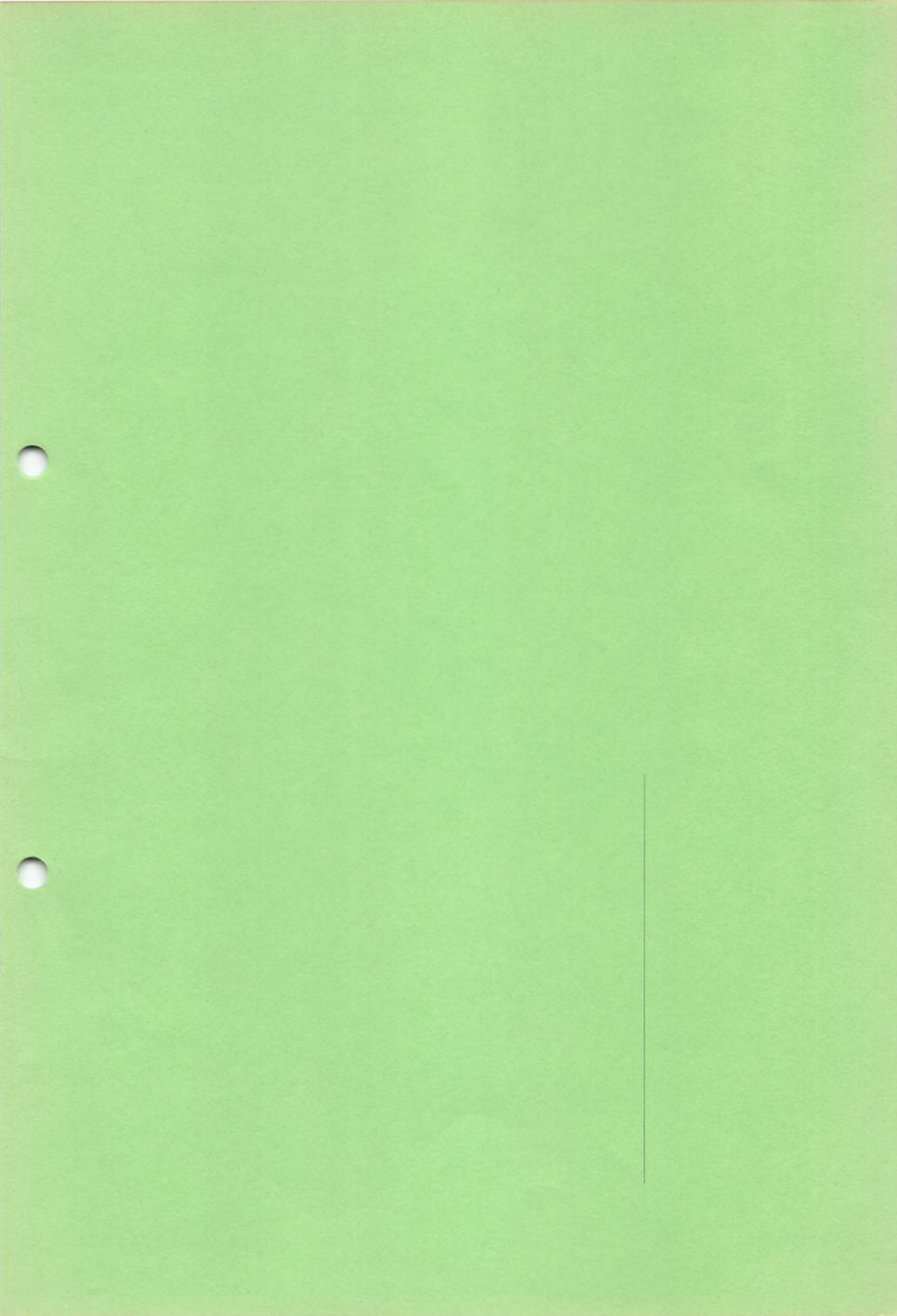


昭和56年12月10日

沖縄 こどもの国 動物園・水族館

イリオモテヤマネコ





◇ 目 次 ◇

1. 祝 辞	4
2. あいさつ	8
3. 沖縄こどもの国のおいたち	9
4. 沖縄こどもの国の歌	11
5. 手づくり郷土館	12
6. 沖縄こどもの国案内図	16
7. 施設概要	17
8. 開園10周年の主なできごと	19
9. 社会教育活動	30
10. その他関係資料	34



ビクトリアカシムリハト



沖縄こどもの国レストハウス「京太郎」とメインゲート



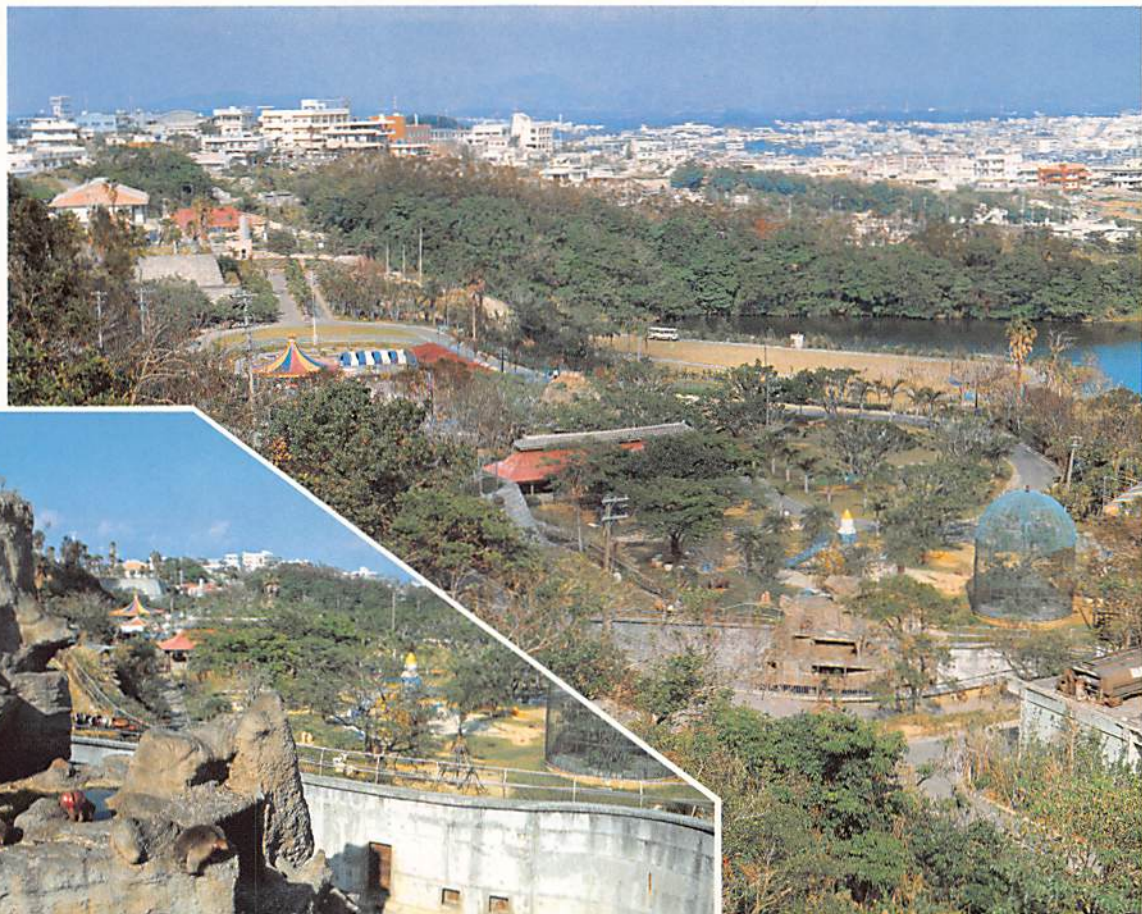
カンムリヅル



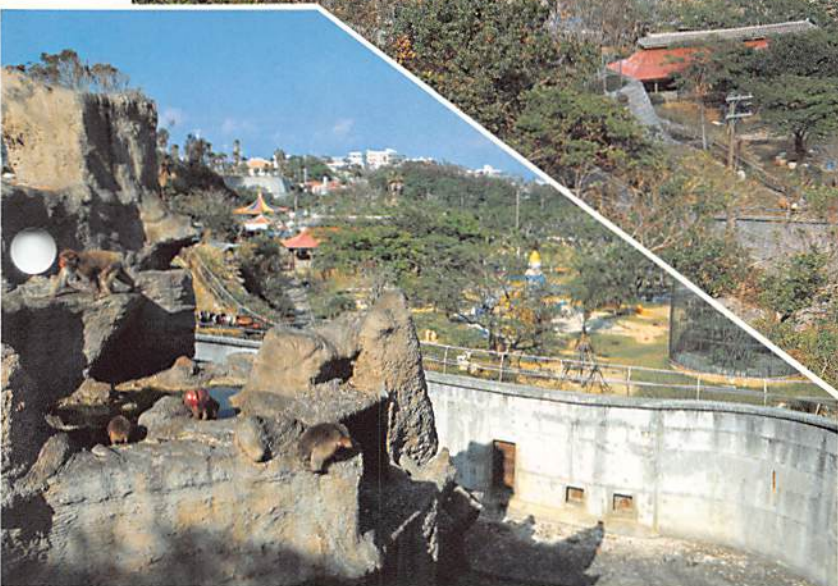
フライングケージ内の鳥たち

ミニチャーホース（アルゼンチン産）





遊びの広場



猿山 (ニホンザル)



ミドリネコメヘビ



ベンガルオトカゲ



オーストラリア園の
アカカンガルーとワラビー

開園10周年を記念して



沖縄県知事 ● 西 銘 順 治

このたび、沖縄こどもの国が開園10周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

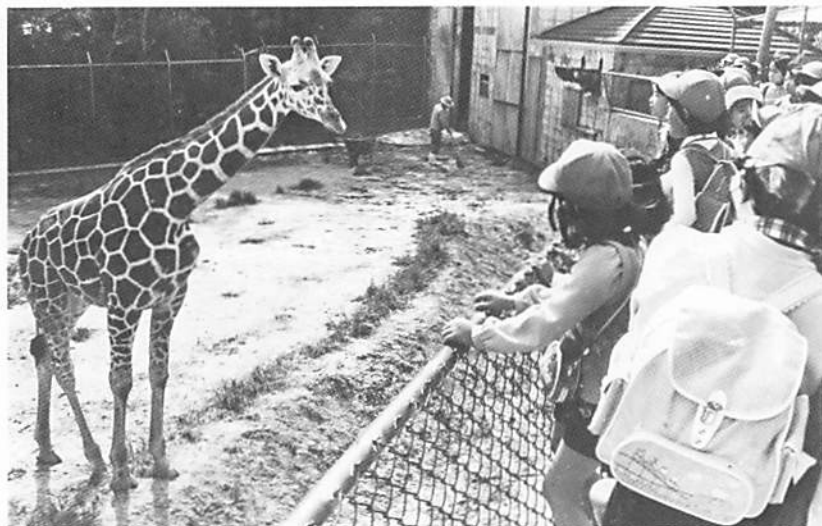
顧みますると、沖縄こどもの国は、10年前、当時の南方同胞援護会が中心となり、全国の小中高校生の募金をはじめ、多くの方々の温い御寄附により、県民の大きな期待の下に誕生いたしました。

児童のための健全育成施設が極めて乏しかった本県において、沖縄こどもの国の開園は、子どもたちの夢をはぐくみ、未来を育てるという意味で各界から大きな期待と関心が寄せられました。そして、関係者の御努力により、本園が県民のこれらの期待にこたえ、開園以来今日まで着実に歩み、発展してまいっておりますことは、誠に御同慶にたえません。

開園当時のミニ動物園や遊園地等のささやかな施設内容もその後逐次整備拡充され、現在では水族館、爬虫類園、こども博物館、水泳プール、乗り物広場等の施設を有するまでに充実し、総合的な娯楽施設として県民に親しまれ、子どもたちに大きな夢を与えています。

県と致しましても、次代を担う児童の健全育成には、特に力を注いでいるところであり、児童館等児童厚生施設の設置に努めているところでありますが、本園に対しましては、昭和47年以降、施設の整備費や維持管理のための運営費として高額補助を行って来ております。

今後とも、沖縄こどもの国が、児童の健全育成の観点から時代の要請にこたえ、すばらしい子どもの国として更に充実発展することを切望するとともに、これまで沖縄こどもの国を育ててこられた関係各位の御労苦に心から敬意を表し、お祝いのごあいさつといたします。





財団法人沖縄協会専務理事 ● 吉田 嗣延

沖縄こどもの国の開園10周年を心からお慶び申し上げます。

これまで、こどもの国を発展させてこられた関係者の皆様のご努力とご熱意に対し、深く敬意を表するものであります。

こどもの国の建設当時のことに想いをいたしますと、誠に感慨深いものを禁じ得ません。

建設に着手した昭和43年は、沖縄の祖国復帰への機運が全国的に盛り上りをみせた頃で、沖縄は「基地の島」で総称されたように人口密度は世界屈指の高率であるため、子供たちの健全な遊び場が少なく、こども向き娯楽施設は皆無といっていた状態でありました。

このため、財団法人沖縄協会の前身である南方同胞援護会においては、地元関係者の強い要請を受けて、沖縄復帰記念事業の一つとして建設されたものであります。

建設場所の選定にも苦勞いたしました。琉球政府等の協力を得て、現在の場所を確保し、建設資金については、全国的な募金を展開し、全国幼稚園児、小・中学校の児童生徒や企業及び一般篤志家から寄せられた暖い浄財をはじめ、国庫補助金、日本自転車振興会補助金等により動物園、猿山、水族館、植物園、こども博物館、屋外ステージ、プール、キャンプ場、自由広場を建設して、昭和45年5月に仮開園したのであります。

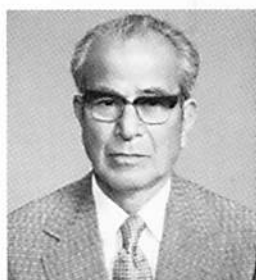
特に、当時沖縄には動物園がなく、沖縄のこども達に動物園の楽しさを知ってもらおうと上野動物園、井の頭自然公園、犬山モンキーセンターからマントヒヒ、日本ザルなどの動物の寄贈を受け、コザ市の職員を上野動物園に派遣してもらい、動物の飼育や管理について指導していただいたこともあります。

当時アメリカの施政権下にあった沖縄に動物を輸送することは、いわゆる外国への輸出になるので、動物の検疫なども厳しく、いろいろと苦勞したことなどがなつかしくしのばれます。

沖縄の将来を荷うこども達に、未来への夢と希望をはぐくめるような施設を贈ろうというこの計画は、誠に多くの人々の善意が結集されてできたものであります。

その後、南方同胞援護会の解散に判い、この施設は財団法人沖縄こどもの国に譲渡され、関係者の皆様のたゆまぬ努力と熱意により、さらに施設が拡大されて現在の立派なこどもの国に発展されたことは、誠に喜ばしいことであります。

沖縄唯一のこどもの娯楽施設であり、学外教育の場であるこのこどもの国が、末永くこども達に愛され、さらに発展されることを祈ります。



初代理事長 ● 大山 朝常

太平洋戦争後の沖縄の特殊事情下における、こども達への健全育成の場として、夢と希望を与えようと南方同胞援護会（現沖縄協会）の計画のもとに建設が進められた沖縄こどもの国が開園10周年を迎えるにあたり、衷心よりお祝い申し上げます。

沖縄こどもの国の建設計画が現在の地に決定を見たのが1968年1月17日でありました。当時の都市計画施設は4半世紀に及ぶ施政権の分離から起る立遅れは他府県と比較にならず、次代を担う大切なこども達の遊び場にもことかく時代でありました。故大浜信泉先生をはじめ吉田嗣延先生が沖縄のこども達に水辺と緑の広場で自然との交い、そして宇宙に夢を託しながら、学習とレクリエーションを結ぶ施設を目標に、こどもの国建設の構想を打出され、南方同胞援護会を通して国庫補助金を流す道を開かれました。市議会を初め関係地主の方々のご協力、又移転を余儀無くされた墓主の方々が汗を流して事業への協力のため移転作業を進められた当時の姿が臉に浮びます。

施設を拡充するために行政の手を離れ、独立採算を将来の目標に財団法人に移行した折り、玉山憲栄園長を中心に意気に燃えている若い職員が資金の不足で事業進捗について新聞紙上からいろいろ報道されている苦しい時代に懸命な努力をかさね、今日ある姿を見るに感無量であります。自転車振興会、船舶振興会、全国宝くじ協会をはじめ、全国の皆さんの協力のもとに建設資金がよせられたご好意に対し感謝の念で一杯であります。

沖縄こどもの国の職員の卓越した技術は真に大なるものがあります。雨にうたれて瀕死の状態の西表やま猫を見事に育成、学術的に価値の高い詳細な記録をものにし、爬虫類園においてはワニの自然孵化に成功を納め国内での快挙であり、又幾多の動物の繁殖奨励賞にかがやく優秀性は生きた科学の標本で沖縄のこども達への最大の贈りものであります。動物園舎一帯が手ぜまになり、将来の園全体計画の再検討の結果、区域を拡大する予定と聞きおよんでいます。初心を思い起し将来に悔を残さない、施設計画を願ってやみません。

最後に、沖縄こどもの国建設にご協力いただきました関係各位の皆様に感謝を申し上げ、又沖縄こどもの国の今後益々のご発展と職員一同様の健康を祈願して私の挨拶といたします。



日本動物園水族館協会西日本ブロック

代表理事 ● 片山 望

先ず、最初に目出度く開園10周年の記念日をお迎えになりますことを、心からおよろこび申しあげます。

忘れもいたしません、私どもが日動水協西日本ブロックの園館長会議に参加いたしますために、はじめて錦地をお訪ねさせていただいたのは、沖縄こどもの国が開園し、沖縄が本土復帰を果して間もない昭和49年1月下旬のことでした。

当時の園内は動物の展示数も少なく、収容施設そのものも決して十分なものではなかったように記憶いたしております。

しかし、その後53年、55年と二度にわたってお訪ねさせていただきました時の内容の充実振りには、ただただ驚きの目を見張るばかりでした。多くの新獣舎や博物館・水族館の新設もさることながら、緑化も進み整然と拡大整備をされて、公園の様相も併せ備えた園内の雰囲気は、最初にお訪ねしたときと較べて想像以上の変容ぶりでした。これもひとえに、玉山園長の卓越した識見と行動力、そうしてまた動物園人としての使命感に燃え、前向きに運営に努力してこられた園の皆々様の力の結集があったからこそと拝察いたし、心からの敬意を表させていただきます。

ところで、貴園の10周年記念は、はからずも日本に動物園が誕生して百周年記念と時を同じくして迎えるわけでございます。

とき、おりしも地球上では発展途上国を中心に、開発という名の下、世界各地で自然破壊が進み、ために多くの動物たちが姿を消しつつあります。

私どもは、今こそ動物園運営目的の一つであります「自然保護思想普及」の立場に立って、積極的な活動に入るべきであると考えます。その点、貴園ですでに実行に移され、実績をつみあげられつつあるイリオモテヤマネコについての研究成果は、今後大きく実を結ぶものと思いますし、是非とも絶滅への歯止めの大役を果していただきたいと思います。また、輸出入の規制を余儀なくされております多くの爬虫類の繁殖などについても、日本最南端の動物園という自然環境を活かされ、より以上に研究活動を進められることを期待しています。

動物園は地域に根を下した活動を中心に運営されてこそその地になくてはならぬ施設として、人々に愛され発展していくものと信じます。

どうか今後とも、この10年間に蓄積された実績をベースに益々のご活躍とご発展をされますようお祈り申しあげ、お祝いのことばに代えさせていただきます。

あいさつ



理事長 ● 桑江 朝 幸

沖縄こどもの国開園十周年記念式典が挙行されるにあたり一言ごあいさつを申し上げます。

沖縄こどもの国は、その名のとおり、沖縄県の児童生徒に、夢と希望を与え、青少年の健全育成の為の福祉厚生施設の一環として、昭和42年、本市に建設されることが決定され、45年5月に仮開園したのでありますが、その後、基本施設や具体的な各種事業計画が進められる中で、本土復帰を迎えた、昭和47年4月に、新たに、財団法人組織として正式に「沖縄こどもの国」が設立開園したのであります。

以来、今日まで、沖縄県をはじめ南方同胞援護会、日本自転車振興会、日本船舶振興会、他各関係機関並びに関係者各位の多大なご尽力により、設立趣旨に則った諸計画事業を積極的に進め、今日に見る本県唯一の自然科学、社会科学面における教育的施設として、更に、青少年の健康増進の為の総合的な遊園レジャー施設として、全国の類似施設に優るとも劣らない施設の充実を見ておりますことは、関係者の一人として誠に喜ばしいことであり、諸計画事業の振興に貢献されました関係者のご功績に対し深甚なる敬意を表する次第であります。

こうして10周年を迎えた沖縄こどもの国は、特に、動物園、水族館、爬虫類園等の施設内容の充実は、すばらしいものがあり、単に、青少年の自然学習施設としてだけでなく、広く県民に親しまれた大衆的な社会教育施設として利用され、更に、本県の観光資源の一つとして発展しておりますことは、既にご承知のとおりであります。

今日、このようにして県民に親しまれている「沖縄こどもの国」の果たす社会的役割は極めて重要なものがあり、学校教育関係者をはじめ多くの県民から大きな期待が寄せられていることも事実であります。

このような観点から、私共といたしましても、青少年の健全育成を図る立場から、初期の目的達成の為、更に一層立派な児童福祉厚生施設として充実発展させて参りたいと考えておりますので、何卒、今後とも関係機関をはじめ皆様方の絶大なご協力と、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申しあげる次第であります。

最後に、沖縄こどもの国開園10周年記念式典にあたり、今日まで多大なご尽力を賜りました関係機関並びに関係者各位に衷心より重ねてお礼を申し上げますと共に、皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念いたしましてごあいさつといたします。

10年のあゆみ

園長●玉山憲栄



沖縄のこども達の久しく待ち望んでいた沖縄こどもの国は、春うららかな子供の節句、昭和45年5月5日に開園されました。

当時の南方同胞援護会により建設され沖縄の子供達に贈られたものでマスタープランの一部完成を祝しての開園でありました。

当時、沖縄は米軍の統治下という特殊な環境の下におかれ、青少年の非行化は年々増える傾向にあり深刻な社会問題になりつつありました。

南方同胞援護会は、此の様な状態を深く憂慮され、恵まれない沖縄の子供達に夢と希望を与える施設として、沖縄こどもの国建設を計画されたのであります。

沖縄こどもの国は、沖縄本島のほぼ中央部に位置し、全島的に最も利用し易い地理的条件を備え、太平洋及び東支那海を眺望しうる景勝の地にあります。

昭和43年1月南方同胞援護会は、此の地に、沖縄こどもの国を建設することを決定しました。此の決定にもとづき、当時の大山コザ市長は市議会の承認を得ると同時に、助役を長とする建設委員会を組織し建設計画に当らせるとともに、用地取得の折衝に入ったのであります。

用地は、沖縄市胡屋外作原の総面積105,600平方メートル余の起伏の激しい原野で此のなかに、当時の琉球政府の所有する農業用のダムを含む33,000平方メートルがあり、他は殆んど私有地でありました。

当初、用地の購入は極めて難行することを予想致しましたが、沖縄に唯一の児童福祉施設を建設するという市職員の使命感と、地主の格別な協力により、スムーズに運び短時日のうちに契約にこぎつけることができました。

当時の琉球政府も、その所有地を無償で貸与させる等、積極的に協力され、ここに土地問題はすべて解決致しました。しかし此の用地のなかにも、先祖伝来の墓110基を有する墓主がいて、これらの墓の移転には、ことの外苦労をしたのでありましたが、これも墓主側の全面的な協力により解決することができました。

いよいよ工事の着工であります。施設建設の構想は、全体を自然公園としてまとめ、そのなかに管理棟、動物舎、水族館、猿山、博物館や自由広場を配置し、児童生徒の情操を豊かにする施設とすると同時に、たのしく遊びながら学べる施設を目指すというものでありました。整地工事が終り、遊び場としての自由広場や管理棟、水族館や動物舎が完成し、超小規模ながら鹿、たぬき、さる類等の動物を飼育展示することができましたので一応開園をして一般公開をなしつつ、引き続き整備拡充が行われることになったのであります。

こうして2年の才月が過ぎて行きました。そして昭和47年4月、沖縄こどもの国は、財団法人に移行し再出発することになったのであります。此の施設が、全県民的な施設であり財団に移行することによって、より多くの団体や自治体からの援助資金を導入して施設の整備拡充をなすべきとの観点から、当時の大山コザ市長及び大浜南援会長等が協議して決定され財団移行に踏み切ったのであります。

財団移行後9年、沖縄こどもの国は大きく変貌を遂げて参りました。沖縄市や県及び本土の各団体特に日本自転車振興会、船舶振興会、日本宝くじ協会等から多額の援助資金が寄せられ、新しい時代のニーズに応えるべく施設の改造や新築拡充が行われたのであります。

昭和47年8月には、新装なった猿山に犬山のモンキーセンターや上野動物園から贈られた18頭の猿の群団が飼育展示されることになり、動物園らしい装を新にしました。同じく11月には、待望のこども博物館が竣工して、沖縄の伝統的な文化遺産である民芸品や工芸品、とう器や織物の歴史及び沖縄列島の地理模型等が展示されました。

此の建物及び展示品は全国の中学校の児童生徒からの寄付による浄財と自転車振興会の補助金によって贈られたものであります。

こえて、昭和48年6月には、復帰を記念して、国際ライオンズクラブ302複合地区の奉仕によって、4,500万円の巨額の資金を投じて竣工したプール及びジャブジャブ池が寄贈されています。



昭和43年 沖縄こどもの国建設用地決定当時の風景

昭和50年7月には、は虫類センターが開園されました。ここでは、大型のワニ、トカゲを始め無毒のヘビや有毒のヘビ、亀類59種 485点が飼育展示されパラグワイカイマンや亀等が数多く自然又は人工によるふ化に成功し、学術的に貴重な資料を提供しています。

翌年の8月には、恩賜上野動物園から贈られた、ミニ新幹線電車の軌道を敷設し、海洋博から譲渡された資材を活用して駅も建設され、メリーゴーランドやミニカーの走り廻る、子供達にとって最も楽しい遊園地も完成致しました。

施設の改造新設は更に続けられています。日本自転車振興会の補助を受け総工費 220,000,000円を投じ総面積 1,224平方メートルの近代的な水族館が完成したのは昭和52年4月であります。円型2階建の建物で一階には36個の水槽が設置され甲殻類、無脊椎動物、きよく皮類、腔腸動物、軟体動物や世界の有名な淡水魚や魚貝類が展示飼育され、二階の直径17メートルの回遊水槽には、沖縄近海に棲む熱帯魚3,000尾余が遊泳しています。この水族館に付属する施設にあしかの池があります。

南アメリカ産の2頭のあしか「オタリヤ」に、いろいろな芸を学習させ、毎週土曜日と日曜日にはその発表会も行っています。

昭和52年7月には新しい動物園が開園され、旧動物舎は、管理課職員の詰所や調理室又は農工具室や動物診療室に改造され活用されることになりました。

新しい動物園は、園の南側一帯の谷間を約20,000平方メートルを埋立てて建設され、小規模ながら本格的な動物園であります。戦前戦後を通じて唯一の動物園の誕生であります。動物園の建設構想は、東南アジアやアフリカ大陸の大型の動物を主体として導入し、これに小獣類を加え、動物の地理的分布にもとづいて、動物地理学的配列といった手法を採り入れることに致しました。

オーストラリア園、アジア園、アフリカ園がそれぞれあります。トラ、ライオンの如き猛獣類はアフリカ園の一角に配列され、類人猿類は系統分類学的に配列されています。

生後4週間目に雨にぬれ弱っている所を保護されました、生きている化石と云われる動物イリオモテヤマネコは、此の園の一角に飼育展示され、元気に育ち、満2才を迎え、体重も5.4キロに増えていきます。

現在、動物園にはキリン・象やライオン等の大型動物を始め67種 472点の動物が飼育展示され、県民や子供達の自然科学教育の場として又レクリエーションの場として大きな役割を果たしています。

又、昭和53年4月には鳥類のフライングケージ（混合飼育場）が完成しました、此の中では世界各地の鳥類26種58点を飛翔可能なケージの中で混合飼育を試みっていますが、植栽された樹木もおい繁り、非常によい環境となって、世界の珍鳥と云われるカンムリバトやカンムリゾルの増殖がみられます。

開園当時 150,000人を数えた入園者も年々増え続け、昭和53年頃には 270,000人に達し、特に学校等の遠足シーズンには、広場が狭く、拡張の必要性に迫られて来ました。此の様な需要に応えるため、昭和51年1月、日本船舶振興会の援助により、ダムに突き出た半島を造成して 4,700平方メートルの面積を有する「水と緑」の広場が完成しています。此の広場からダムを渡って、爬虫類センターに通ずる浮橋も架設され、園内を一巡する遊歩道が完成し一段と便利になりました。

「水と緑」の広場の設置は、特に中高生やヤングに利用され喜ばれています。

今年の3月には待望久しかったレストハウスが、日本宝くじ協会及び沖縄市の援助により、総工費 106,500,000円を投じて完成致しました。総面積 1,440平方メートル余、琉球の建築様式を採り入れた近代的な建物で、ホール、レストラン、会議室、倉庫等が設置されています。

当園の敷地の土質は概ね、クチャやニービ層で構成され、整地したあとの土壌は岩盤の如く固く、客土又はめくら暗渠をせねば植栽は不可能で、植樹には事の外苦勞の伴うところでありますが、毎年植栽された樹木も繁り始め緑の様相を深くしています。

いま、沖縄こどもの国は、開園当時とは、異なった使命と需要のなかで、更に拡張発展を続けようという時期に10周年を迎えた次第であります。



デザイン 宇津木松二

沖縄こどもの国の歌

♩ = 1 0 4

元気よく

作詞 南 益子
補作 西條直樹
作曲 渡久地政信



ぼくもわたしもおきなわのあしたをつくるこげんきなこ



みんなえがおでほがらかにあつまるひろばだきみもこい



ゆめのおきなわこどものくにゆめのくに

三、

ぼくもおきなわの
明日をよんで
みんなはなそう
小鳥もななこ
愛のおきなわ
愛の国……

二、

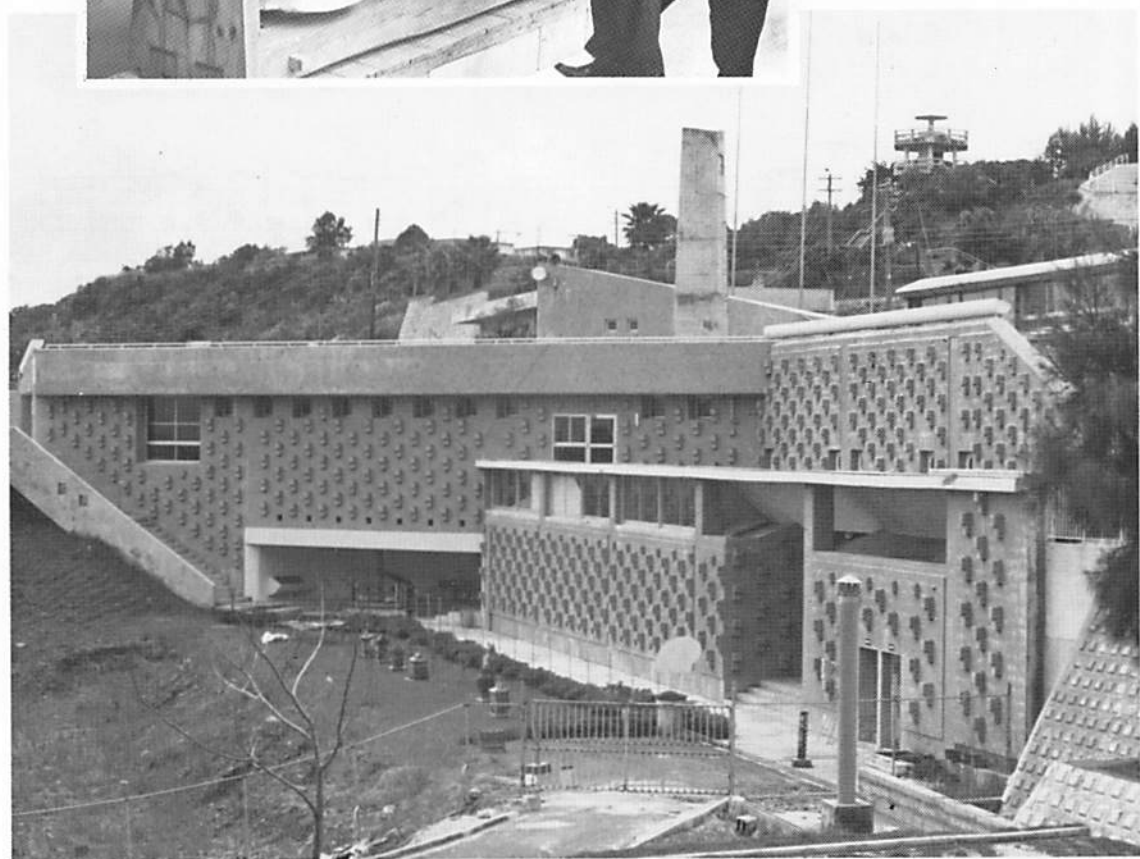
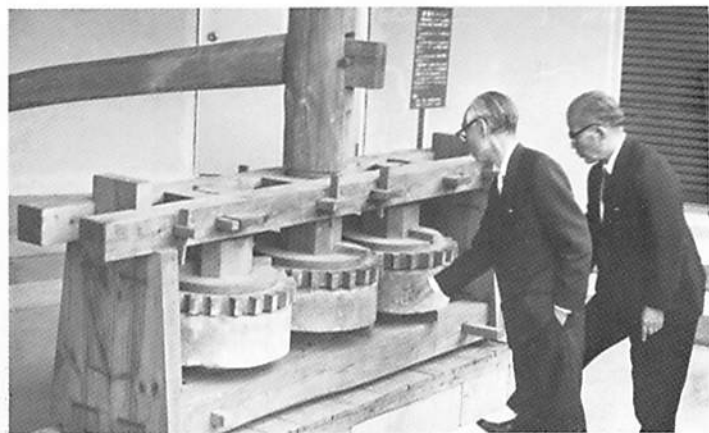
ぼくもおきなわの
明日へのおきなわ
みんなのうた
てんまでとく
光のおきなわ
光の国……

一、

ぼくもおきなわの
明日をよんで
みんなが
あつまる
夢のおきなわ
夢の国……

手づくり郷土館 おきなわ市・今昔

いまむかし



の2つに分けられている。

また、展示展開の方法としては、今までどこでもとり上げられたことのないユニークでクリエイティブな手法をとった。つまり、山内と泡瀬の古老たちに沢山登場を、お願いして古老たちの子どもの頃のふるさとを語って

もらう中から、戦前の沖縄市を浮び上らせ、
展示として組み立てていく、という手法をと
った。

パートⅡ 沖縄戦—いくさ場の子どもたち

米軍資料をつかって沖縄戦、その中の子どもたちを描き出している。

パートⅢ 沖縄市は今は……

現在の沖縄市を子どもたちの健康で明るい
笑顔の中で印象展示で展開する。



沖縄 こどもの国・の案内図

沖縄動物園・水族館

《入園ご案内》

※開園時間

4月～9月 午前9:00～午後5:30

10月～3月 午前9:00～午後5:00

※入園料

大人 500円

中高生 250円

小学生 150円

幼児 100円

※プール利用料

300円(高校含む)

200円(小,中)

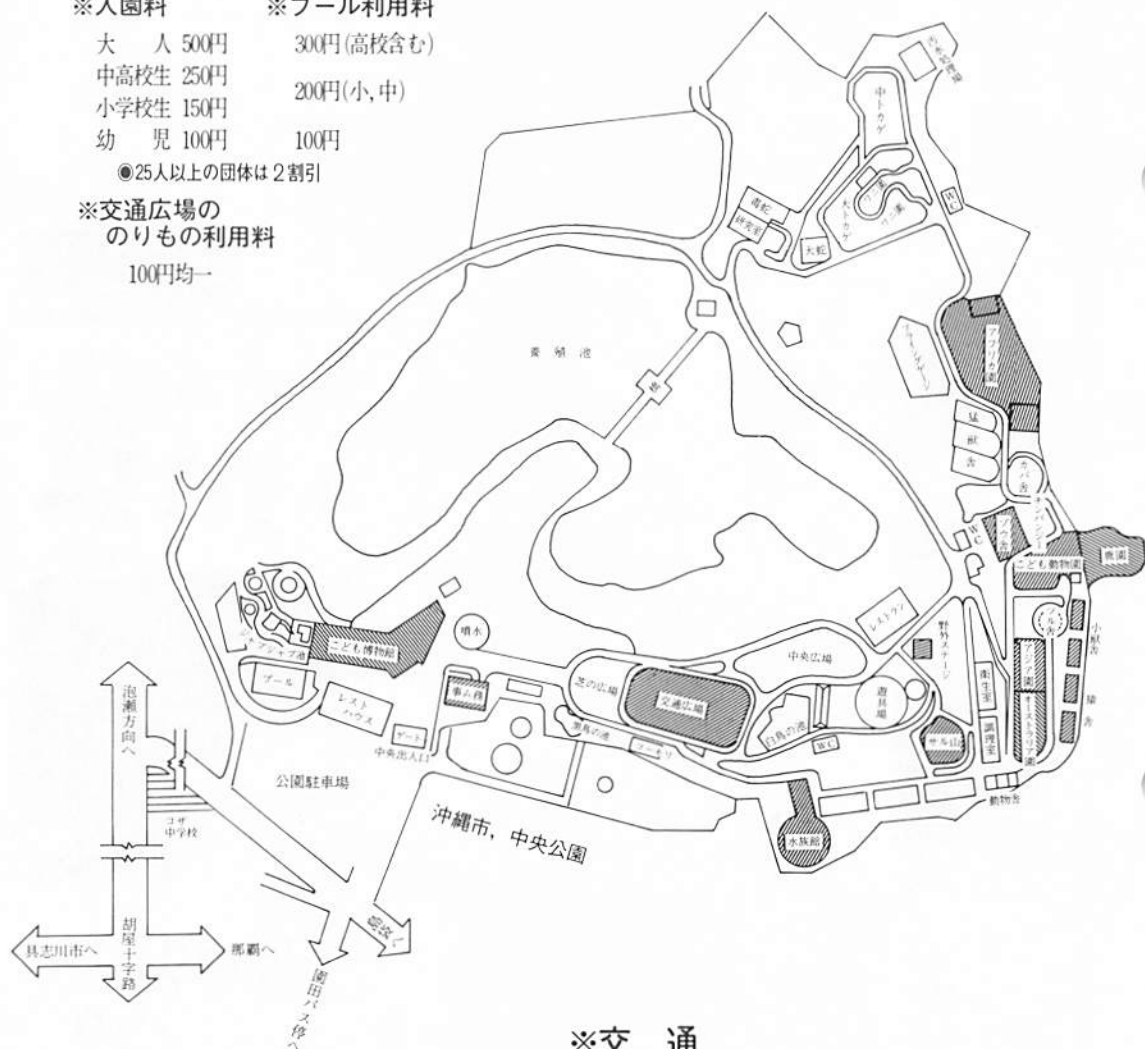
100円

●25人以上の団体は2割引

※交通広場の のりもの利用料

100円均一

ZOO OKINAWA



※交通

●バス利用の場合

那覇↔石川・屋慶名・嘉手納線利用

園田バス停下車で 徒歩……7分

胡屋十字路バス停下車 徒歩……10分

TEL 09893-3-4190

施設概要

起 工 昭和43年 3 月14日（地鎮祭）

開 園 昭和45年 5 月 5 日（開園式）

県有地 21,000㎡

市有地 68,500㎡

私有地 15,500㎡

位 置 沖縄市胡屋831番地

TEL 09893-3-4190

面 積 115,000 ㎡

動物園施設

アフリカ園、オーストラリア園、フライングケージ、猛獣舎、熊舎、類人猿舎、カバ舎、象舎、馬舎、牛舎、鹿園、子ども動物園、ラマ舎、マール舎、モンキアパート、小獣舎、猿山、オオアライケイ舎、カピバラ舎、鳥の家、白鳥の池、ペリカンの池、イリオモテヤマネコの家、オオコウモリ舎、その他。



水族館施設

回遊水槽、海水個水槽、淡水個水槽、オオサンショウウオ水槽、海ガメの池、アシカの池。



爬虫類施設

大蛇館、毒蛇館、オオトカゲ放飼場、中トカゲ放飼場、ワニの池、カメの池、爬虫類研究室、その他。



遊具施設

こども電車、ゴーカート、ミニカー、メリーゴーランド、その他小のりもの。



公園施設

水と緑の広場、中央の広場、休憩所、遊歩道、その他。



関連施設

手づくり郷土館、ライオンズ広場（プールとジャブジャブ池）、噴水、レストハウス、駐車場、パーラー、高倉、その他。



管理施設

管理事務所、管理詰所、病理室、動物保護室、調理室、工作室。



休園日

無 休（臨時休園日以外は無し）。

開園10周年の主なできごと



昭和40年頃の沖縄こどもの国用地

1968 (昭和43年)

1月17日 ● 南方同胞援護会（会長大浜信泉）より沖縄こどもの国の建設が旧コザ市（現沖縄市）胡屋外作原地内に正式決定がなされた。南方同胞援護会においては、沖縄の祖国復帰記念事業の一つとして、沖縄の子どもたちの未来への夢と希望をはぐくむ健全な施設として、場所の選定に当っては紆余曲折もあったが、ようやくコザ市（現沖縄市）に決まり、全国小学校・中学校の寄付金をはじめ、国庫補助金、日本自転車振興会補助金、その他一般寄付や浄財でもって沖縄こどもの国建設に当ることになった。

1月26日 ● 沖縄こどもの国の建設が当市に決定になり、その建設予定地の関係地主から建設用地の譲与に関して承認をとりつける。

3月28日 ● 沖縄こどもの国第一期工事（敷設造成工事）が施工者林重機（代表者嘉手苺林盛）によって工事が始められた。「沖縄こどもの国」の建設については、敷地の造成工事を初めとし、建設関する資金の調達は南援が負担し、敷地の提供と工事の施行についてはコザ市が受持つことで双方で業務委託契約がかわされ、更に琉球政府の協力を得て建設が進められた。



1969 (昭和44年)

2月14日 ● 越来土地改良施設及土地（越来ダム）の琉球政府用地の借入については、越来土地改良組合の解散をして、（同組合の納付すべき負担金13,574\$をコザ市が肩替り）、それによって沖縄こどもの国用地として琉球政府より借入れることになった。



7月25日 ● 東京都にある株式会社前田商事（代表者前田八重美）は、沖縄こどもの国がコザ市に建設されることに賛同され、同社製品プレイスカルプチャー10点を沖縄こどもの国に寄贈された。

7月29日 ● 沖縄こどもの国の第2期工事として、管理棟、水族館、動物舎各棟、鳥類舎その他広場の花壇などが完成する。

1970 (昭和45年)

1月14日 ● 全国小学校長協会及び全国中学校長協会に働きかけ「沖縄こどもの国」建設基金の募金について両協会へ協力方要請を行い、本格的な募金活動が展開される。

3月13日～17日 ● 沖縄こどもの国建設資金募集のため、コザ市、那覇市、糸満市、名護町などにおいて「チャリティーショー」を開催する。



5月5日 ● 沖縄こどもの国の開園式が行われる。開園式典は、中央高校のプラスバンド演奏に合わせ、おおぜいの市民、市内小中学校の代表450人で「沖縄こどもの国の歌」を合唱し、玉山コザ市助役の経過報告のあと、大山コザ市長、大浜信泉南方同胞援護会々長、遠藤朝英「沖縄こどもの国」建設実行委員長のあいさつと、屋良行政主席、北方対策庁沖縄事務局長、高等弁務官、沖縄市町村長会長などの各代理による祝辞がのべられた。

「沖縄こどもの国」のシンボルマークと歌詞の公募の中から次の方々が決って開園式会場で発表される。シンボルマークは東京都青海市の宇津木松三さんが入選、歌詞「夢がいっぱい」は滋賀県近池八幡の南益子さんがそれぞれ入選した。

10月25日 ● 全国の小学校、中学校より、沖縄こどもの国のこども博物館の建設基金として、全国児童生徒の善意の贈もの（小学校46,000,000円、中学校24,560,000円）を携え、全国小学校長連合会々長高橋早苗氏並に全国中学校長連合会々長福島恒春氏が大山コザ市長を訪ね、寄付金の目録を手渡す。



12月4日 ● ハナジカ20頭が贈られる 愛知県犬山市にある(財)日本モンキーセンター（所長宮地伝三郎）よりハナジカ、20頭が贈られる。そのきっかけを作ったのは、京都に住む著名な版画家中川伊作さんが、大山コザ市長の要望を快く引き受けられ、宮地所長にその旨を相談されそれが実現したものである。

1971 (昭和46年)

1月29日 ●民芸品を購入する こども博物館の建設のための基金が募られており、その所蔵品として、民芸品（沖縄及び南方のもの）165点（\$5,000）で那覇市松川130平良榮祥氏より購入する。



2月27日 ●大阪豊中市より友情のシンボル「少年の像」が贈られる 豊中市（市長竹内義治）とコザ市は昭和39年以来兄弟都市として相互の親交を深め、コザ市職員の行政実務研修にも積極的に世話をさせていただき、両市民の心のかけ橋として、末ながい友好と親睦の絆を象徴して「少年の像」が豊中市より贈られる。沖縄の青少年が苦難に負けず立派に成長することを祈念して建てられた像でもあります。



4月22日 ●国際ロータリークラブより「噴水」が贈られる 沖縄の本土復帰を記念して、国際ロータリークラブ359（東京都と沖縄分区を含む）より、入口正面の噴水を\$11,545の基金をもって建設され、沖縄こどもの国に贈られる。



5月2日～5日 ●ゴールデンウィーク「こどもの国まつり」賑わう 昨年5月に開園以来、二度目のゴールデンウィークを迎え、マスコミと共催でもって多彩な催物が行われ、連日親子連れの長蛇の列と人波と行楽客で埋まり数万余の人で、コザ市の交通は至るところで混雑させるに至った。



12月27日 ●翁長林寛さん宮古馬を贈る 翁長さんは商用で宮古に行った際、宿で同宿した沖縄こどもの国の職員から「宮古馬は今絶滅の危機にあり、その保ゴが必要である」との話に感激、実情を知った翁長さんは、8才馬の牝を現地で購入して、沖縄こどもの国へ贈られた。

1972 (昭和47年)

1月27日 ●与那国の在来馬贈られる 贈りの主は那覇在の(株)クロコダイル社長照屋敏子さんと、数少くなった与那国の在来馬を繁殖の目的で一番を飼っていたが、このほど牝が死んだので、残った牝一頭を子どもたちの乗馬用として、鞍も新調して贈られた。照屋さんは、これまで



沖縄こどもの国がコザ市のみによる施設と思っていたが、自分の孫らから当園の様子を聞き、自分も初めて見て、こどもの国は沖縄全体のものであることを知り、子どもたちの良き愛馬になるようにと、この度の贈りものとなった。



3月31日 ●猿山及びよう壁工事完成 琉球政府の補助事業で猿山とよう壁（水族館側から南傾斜面のよう壁）が完成して、当面は学校や家庭で飼っていたブタオザルを10匹程猿山に入れていたが、日本モンキーセンターや京都岩田山の野生ザルを10匹入れて飼育。その翌年に潜口鳥獣店より10匹の群を入れる。

4月19日 ●南方同胞援護会とコザ市の業務要託 によって建設が進められた沖縄こどもの国は、沖縄が5月15日に本土復帰の大目標達成によって、南方同胞援護会が解散されることになった。この新しい段階に臨み沖縄こどもの国も財団法人沖縄こどもの国を設立し、南援より資産の譲与を受け独自の経営でもって、法人の経営に当ることになった。



6月15日 ●こども博物館完成 沖縄の子どもたちのために全国の小中学校から募られた寄付金と日本自転車振興会の補助によって建設がなされた。特に建物構造が傾斜地を利用した工法で建てられ、展示内容も沖縄コーナー、本土コーナー、科学遊具などがあって、多目的ホールは当園の唯一の屋内催物ホールである。



8月1日～5日 ●第一回サマースクールを開設 夏休みを利用して、市内7校の小学校の6年の各学級より6人又は7人の子どもたちを参加させ、自然に親しみながら動物の生態の観察をしたり、餌を作って与えたり、また、子ども博物館では粘土を使って動物の姿を形作ったり、焼き物にして作品を造りあげている。

11月11日 ●上野のパンダへサトウキビ送る 日中交友のしるしの贈ものとして上野動物園のカンカン・ランランは、サトウキビをおやつに与えたいと中川飼育課長の申し出があり、それに



応えて約 200 kgを送る。折しも東京では、キビ価格値上げ交渉団が上京して農林省に直談判の最中でもあった。

11月23日 ●オルゴール時報装置の寄贈 日本オルゴール協会は毎年1基のオルゴール装置をその年度の話題を呼んだ県に贈ることになっているとのこと。今度は当然のことながら、全国民願望の沖縄県の祖国復帰の年に当って、それを記念として、沖縄こどもの国へ特注製品1基のオルゴール時報装置が贈られ、朝夕の時を告げ、こどもの国の歌など園内に流れる。

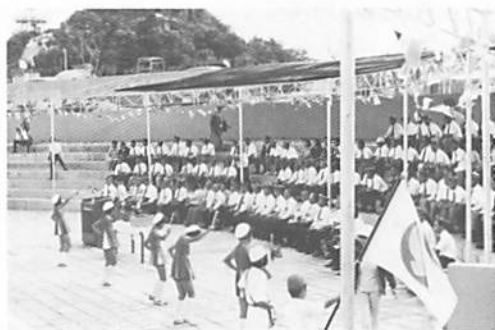
1973 (昭和48年)

1月1日 (元旦) ●世界動物博覧会を開催 戦前、戦後を通じて沖縄県において、大がかりな



動物園として動物が大挙してしかも1カ所において、公開展示されたのは今回が初めてである。鳥獣類120種、600点の世界の動物を一堂に集め、元旦を期してオープン、3月21日までの間に185,000人の入園者で空前の賑わいを見せた。

3月21日 ●世界動物博覧会を催した溝口鳥獣店 (移動々物園) は、同博覧会が終るに当って、それを記念にトラ、ライオン、ニホンザル10頭、弁慶号 (電車) を当園に寄贈された。このことによって、大型動物も飼育されるようになり、更にはのりものなどが備えられた施設として、当こどもの国の夢が一つつつ広がって来た。



6月28日 ●ライオンズ広場落成 夏場の涼を求める施設、プール (25m) とジャブジャブ池 (5基) その他付帯施設をライオンズ国際協会302W地区 (京都・大阪以西) の沖縄県の本土復帰を記念した大がかりな事業として、総額45,000,000円投じて完成し、このライオンズ広場では4月から10月まで長い夏の期間プールを開けている。



9月15日 ●水鳥の池完成 水禽類の身近かに観察できる水鳥の池を中央広場のパーゴラ付近と、

他にフラミンゴの池などを完成、その後大阪豊中市の服部緑地サボテン公園(原野喜一郎園長)よりコブハクチョウ(一番)、浦添市の比嘉秀幸さんよりカルガモ13羽、山口県宇部市ときわ公園よりコブハクチョウ(一番) 鹿児島市平川動物公園よりヒドリガモ、マガモなど50羽が贈られ、その他上野動物園からもカルガモ10羽が贈られ水鳥の池はかなりの賑わいを見せた。

1974 (昭和49年)

5月11日 ●走れK 100 こどもの国へ来る テレビで子どもたちの人気をさらった「走れK100」のタイヤで走る機関車とモンタ(大野しげひさ)を招き「K 100ショー」とサイン会が行われ、子どもたちの人気は衰えることなく大勢の人で終始賑わった。

7月29日 ●セスナ機贈られる 浦添市に住む建築設計士内間正満氏が自家用機として使っていたセスナ機を古くなって、整備して飛ばすには費用がかかり過ぎるので、当園に展示して科学教育に役立てて欲しいとの申し出があって、子ども博物館の陸屋根に展示して、身近かに飛行機を見ることができた。

8月6日 ●ホテイアオイ除去作業を始める ダムの水面はホテイアオイが繁茂して、池の様相はまったくなく、悪臭さえはなつ汚水がよどむ状態にあったが、ユンボでもって、草を取り上げ、ボートで草を寄せて除去する作業を雨天の日課として繰返し実施し約4分1の水面がのぞかれるようになった。



10月30日 ●高倉贈られる。昔の穀類を納める高倉を鹿児島県沖永良部島に残っているのを、沖縄市照屋楽器店(社長、照屋林孝氏)の寄贈によって、今は殆んど見られなくなった昔の高倉を再現することができた。

1975 (昭和50年)



5月3日～5日 ●沖縄こどもの国まつり(恒例) 5月の児童福祉週間の社会的行事の一環として、沖縄県としても、この行事期間中は、当こどもの国を小学生以下の児童に無料開放して欲しいとの要望もあって、今回からは初めて小学生以下は無料となり、一家団樂の楽しさが一層増した盛況ぶりだった。

7月5日 ●戻り梅雨による地這り災害 度重なる豪雨によって、地盤はかなり軟弱化し、そこへ戻り梅雨(俗称)の大雨が襲来し、中央広場の一部と弁慶号軌道やミニカーの走るのりもの広場の大半は土砂が池に流入、道路も決壊してまったく手のつけられない荒寥たる姿になってしまった。



7月12日 ●爬虫類園オープン 亜熱帯の沖縄の風土と気候の自然条件を活かして、爬虫類を自然に近い状態でオープンケージ式の飼育場に、

ワニ、トカゲ、ヘビ、カメの各種爬虫類と大蛇館、毒蛇館など、日本に類のない大がかりの爬虫類園が完成した。

9月8日●大型動物の入園 全国各地において移動動物園を開催している動物業者が経営に行き詰り、破産の浮目に合い動物を置いて行方をくらますことになった。その協賛をした沖縄タイムスから動物の引き取り依頼を受け、ゾウ、ラクダ、カバ、チンパンジー、ゴリラ、ロバなど多数の動物が仲間入りをした。

1976 (昭和51年)

3月3日●沖縄海洋博覧会の終了に伴い、建物及び展示物、その他の備品の購入又は無償譲与を受け、園内の施設及び内部設備に活用。のりもの広場の駅、動物舎の屋根、ゴーカートのりばの待合所、パーラーなどFRP屋根や博物館、事務所などの冷房機などかなりの頻度で活かされた。

4月18日●ライオンズ広場の植栽 ライオンズ広場を植栽して、子どもたちの楽しく水泳のできる場所として、憩いの場所として、涼風を呼ぶ緑蔭の広場にするため、ライオンズクラブコザ支部では、その結成15周年記念事業として同広場に、大王ヤシ、イブキなどの植栽を行う。



8月7日●地這り地復旧工事完成とのりもの広場落成 戻りつゆによって地這り災害を起し、復旧の目途なくしばらく放置されたが、ようやくにして、国の都市災害法を摘要、国と県の補助事業で復旧、園内の中央広場やのりもの広場

が活かされるようになった。のりもの広場には、電車軌道、駅、待合所など、日本船舶振興会の補助によって完成された。

1977 (昭和52年)



4月1日●水族館の開館 水族館の建設は、日本自転車振興会の補助事業に依って昭和49年度を初年度にして3カ年に及ぶ補助事業がようやくにしてその完成を見ることができた。主な施設は回遊槽と個水槽32個で、沖縄近海の魚介類を主として展示し、併せて淡水性熱帯魚なども展示して自然観察の学習の場が身近かにできた。

6月5日●ボランティアによるホテイアオイの除去作業始められる 越来ダム(約2万㎡)にはホテイアオイが池一面に広がり、1度は半分近くまで除去したが、ダンナーの発生は勢いよく、からみ合ってすぐ増える、沖縄市社会党青年部(中の町、胡屋、安ゲ田)の動員に依って、人海戦術を展開、数度に及んでホテイアオイを除去、完全に池の水も清められ、今ではコイ、フナ、テラピア、スッポンなどの養殖池として活かされるようになった。



7月23日●新しい動物園施設を開園 これまでの旧動物舎は畜舎型で格一化され個々の動物の飼育展示場としては、いささか不向きな面が多

く、これを契機に新たに南東部を拡げて小規模ながら、猿舎、小獣舎、アジア園、オーストラリア園、子ども動物園、鹿園、アフリカ園、象舎、猛獣舎など種別または生息地別の動物の飼育展示がなされた。

1978 (昭和53年)



6月24日 ●フライングケージオープン 県補助事業(昭和52年度)によって建設されたこの施設は、鳥類の混合飼育場として、各種鳥類が自然的な条件の中で、それぞれの生活の様子が身近かに観察できる施設である。ことに水辺の鳥、地上性の鳥、樹上性の鳥などが飼育され、多くの鳥たちの繁殖が見られたがビクトリアカンムリバトは4回も繁殖し、繁殖賞に輝いている。



12月28日 ●水と緑の広場完成 日本船舶振興会の補助事業で池に突き出た半島を切りくずし、約4,000㎡の芝の広場をつくり、爬虫類園と結

ぶ浮橋でもって園内の循環道路を完成することができた。これによって池周辺の環境はかなり整備され、水生々物や水鳥の観察、魚類の養殖、釣など自然と人工を調和させた「水と緑の広場」は新たな催物広場として、憩いの場として活用されるようになった。この浮橋の渡り初めは、現理事長桑江朝幸氏の親子三代によって行われた。

1979 (昭和54年)



1月6日 ●新観光名所記念碑建立 琉球新報が主催する、沖縄県の新観光名所の選定は県民、市民の巾広い公募と推薦、投票運動を展開しその審査の結果、新観光名所地として当こどもの国が選定され、ここに記念碑の建立がなされた。



1月31日 ●熊舎完成 県補助事業(昭和53年度)による熊舎の建設はオープンケージ式で運動場と寝小屋が仕切られ、近代的な施設として完成した。飼育場はベルグマンの法則「同系列の動物では緯度の高いところに棲む程からだが大きくなる」を理解しやすいように配列して飼育してある。



3月15日 ●類人猿舎とアシカの池完成 日本宝くじ協会の全額助成事業でこの二つの施設が完成し、類人猿舎は2種類の飼育場からなっており、現在はチンパンジーが飼育され、他方はゴリラかオランウータンを予定している。アシカの池は放飼池と飼育場とアシカショーのステージと観覧用のスタンドからなり、2頭のアシカの曲芸珍芸は観客から拍手を受け、人気を呼んでいる。



5月3日～5日 ●国際児童年記念沖縄こどもの国まつりと銘打って、沖縄県、沖縄市の共催でこの事業を推進し、特に沖縄市職員の積極的な協力を得て例年にない入園者で賑わい、子どもを中心とした催物は、子どもエイサー、子ども舞踊など、こどもフェスティバルにふさわしい催事であった。



6月16日 ●イリオモテヤマネコの幼獣の保護 国の特別天然記念物、イリオモテヤマネコの幼獣が西表島美原部落近くの原野で、豪雨の中親にはぐれた幼獣が発見され保護された。当園はその幼獣の保護依頼を受け、早速その対応に臨み比嘉源和飼育係を専任させ体重わずか430gの生後50日前後の幼獣の保護と飼育に当たった。

11月29日 ●施設の外柵工事完成 沖縄県補助事業（昭和54年度）で実施、これまで外柵が不十分で人の外部よりの浸入や野犬の浸入で鳥獣類にしばしば被害を受け、その浸入防止柵と万々に備え、園内の危険獣類が柵外脱出を防止するために頑強な外柵が完成した。

1980（昭和55年）

1月12日～13日 ●国際児童画展開く 国際児童年にちなんで日本ユネスコ協会が世界50数カ国の幼児及び児童の図画作品127展が当こどもの国、こども博物館に展示された。世界の各々の子どもたちが何を見て、何を考え、その表現する風俗習慣の様子が子どもたちの目に生々と写された作品が多かった。



3月30日 ●メインゲート完成 沖縄市は昨年の国際児童年の記念事業の一つとして、当こどもの国の施設を象徴するメインゲートの建設に当たった。灼熱する太陽と赤瓦屋根とそこに正坐している魔除け獅子は沖縄の色彩であり風景ともなり、沖縄の印象を深くするものがあります。



6月28日 ●ゴーカート施設完成 のりもの広場ののりものは幼児性で、小中学校の子どもたちにとっては余り興味がない、動きの激しいゴーカートは彼等を引きつけるものがあり、現在地の広場を利用し約500mの走路は立体交叉をする夢のコースもあって、子どもたちの人気の的になっている。



10月8日 ●ヒトコブラクダ（一番）とマール（一番）が寄贈される 北アフリカやアジアの西南部に分布し、砂漠の船として紀元前より家畜化

されたヒトコブラクダは、コザライオンズクラブ結成20周年記念として当園に贈られ、マールは具志川ライオンズクラブが友情協力として、コザクラブの結成20周年記念を祝して、併せて当園に贈られたものである。



10月11日 ●採集船、ロイヤルクイン号安全祈願

日本自転車振興会の補助事業（昭和55年）によって、水族館の魚介類採集及び沿岸海域の調査船として完成されたものである。折からの台風接近とあって、かなりの風雨の強い中で、普天間権現の新垣宮司に依って採集船の海上における安全祈願がなされた。



10月17日 ●イリオモテヤマネコ環境庁、文化庁より飼育許可 去る54年6月16日に幼獣を保護して以来1年有余を経た今日、ヤマネコの自然復帰はむずかしいと言う判断と、人工飼育下において生態や行動の研究をすることが特に望まれ、環境庁からは捕獲許可、沖縄県からは飼養許可、文化庁からは現状変更の許可がそれぞれ取りつけられた。

1981 (昭和56年)

1月28日 ● 汚水処理施設 (第1期) 完成 園内において発生する汚物や汚水の処理については東南側の湿原地帯に自然流化をしていたが、動物が増えるに伴い、汚水量も多くなり、今回はその第1期工事として (総額2,100万円) 汚水処理施設が完成し、2期事業に依って、水質を5PPMまで清めることができる予定である。



3月21日 ● レストハウス完成 日本宝くじ協会の助成事業によって建設が進められて来たレストハウスは、1階が食事処として入園者や外来の人にも利用でき、2階ホールは催物会場 (イベント) など今後幅広い利用ができる施設である。



5月4日 ● 動物の繁殖賞を受ける 日本動物園水族館協会より、ピクトリアカンムリバトとオリイオコウモリにそれぞれ繁殖賞が当園に贈られた。この賞は、これまで同協会の傘下において飼育している動物の中で、他のどの園でも繁殖の成功例のないことが前提で、しかも飼育下において交尾から出生まで、更に6カ月以上を経過した繁殖動物に贈られる賞である。



8月8日 ● 第10回サマースクール終了する 当こどもの国が昭和47年に財団法人設立以来、第1回サマースクールを開催し市内小学校高学年児童を対象に、毎年夏休みで子どもたちが教室から解放され、自由に学習を楽しむよい機会に実施され、好評を博して来ました。このサマースクールは、動物飼育グループと博物館を中心にした図工グループに編成され3日間一生けん命、興味と関心を持って取組んで毎年その実績をあげて来た。なかでも図工の指導者として第1回から第10回まで毎回欠かすことなくサマースクールの指導育成に当られた玉那覇清徳教諭には敬意を表すると共に意義のある10年であった。



12月10日 ● こども博物館新装オープンする こども博物館が開館してから10周年の節目に当たって、博物館も地域社会に密着した展示のあり方が望まれ、在沖米軍の所蔵する戦史博物館資料も含めて、新しい展示の方法を試みることになった。沖縄市の歩んで来た道程を振り返り、語りかける博物館として、戦前のこと、戦争のこと、戦後のことと親子間や世代間の関係などユニークな郷土館として衣替えすることになった。

社会教育活動

サマースクールについて



夏休みは子どもたちにとっては教室学習からの開放によって自主的な行動半径の輪を大きく広げることのできるよい機会であります。

それぞれ課題（テーマ）をもって、こどもの国の園内において自然の事物、事象を観察研究すると共に創造性にとんだ造形活動の場を設置して子どもたちの健康的な生活経験を豊かにすることをねらいとして開設します。

1. 自然に親しみ、動物の生態を観察、研究し動物愛護の心を養う。
2. 造形活動を通して美的情操を養い、創造性を育てる。
3. 公共施設を大切にし、進んで社会のために奉仕する態度を養う。

以上のような開設の主旨のもとに昭和47年から沖縄市教育委員会と共催でサマースクールを立案計画し、学校の協力を得て開設をしています。この間学習に要する教材費は無償提供です。

参加児童は市内の6年生を対象とし各学級から図工班3人、動物飼育班2人、計5人で保護者の責任において参加させています。

学習活動については動物飼育班では、児童数

100名あまりを4グループに分けて学習指導の充実を図っております。

学習期間は3日間で動物飼育班では、こどもの国の先生方と動物園（鳥獣類）水族館（魚類）爬虫類園（爬虫類）と動物の習性、生態及び飼育観察、研究をそれぞれ1日ずつ3日間、ローテーションで学習が展開されます。

図工班では、博物館の多目的ホールを利用して160名余りの児童を学校現場から招聘した先生方3名の指導のもとで一斉に学習が展開されます。

これまで、図工班では、焼物、描画、版画、トーテムポール、壁掛、うき彫り、かざりつばなどを題材にした学習をしています。

回顧しますと、100名あまりの児童でスタートしたサマースクールも毎年その数を増やし、現在では毎年260名余りが参加するようになり、昭和56年度、第10回終了生を送り出し、終了生総数1,900名余りを数えています。

第1回目のサマースクール終了生は23才と、立派な社会人や大学生になり、よく当園を訪れます。ある終了生は子の親として自分の作った

作品をわが子に知らしめ、またある女子高校生はサマースクールの動物飼育班での学習体験に感動し、獣医師の道を目ざして勉学に励んでいます。

10周年を迎え、今後のサマースクールの充実と子どもたちがより健康で情操豊かに育つ環境づくり、合せて施設の充実を図りたいものです。

サマースクール実施表

(図工班)

回	年 月 日	題 材	指 導 者
1	昭47.8月1日・2日・3日・15日・16日	焼 物	中 城 中・玉那覇清徳
2	昭48.8月1日・2日・3日・4日・5日・6日・7日・8日	描 画・版 画 トーテムポール	高江洲中・伊計 光義、美 東 中・玉那覇清徳 美 東 中・松田美代子
3	昭49.8月1日・2日・3日	壁 掛	宮 城 中・玉那覇清徳
4	昭50.7月28日・29日・30日	壁 掛	宮 城 中・玉那覇清徳、コザ中・安里 栄二
5	昭51.7月30日・31日、8月3日	うき彫り (ストーンアート使用) かざりつぼ (紙粘土使用)	宮 城 中・玉那覇清徳、コザ中・安里 栄二 コザ小・森田 政順、普天間小・仲村 兼明
6	昭52.7月27日・28日・29日	うき彫り かざりつぼ	宮 城 中・玉那覇清徳、普天間小・仲村 兼明 嘉手納小・仲嶺 真範、あげな小・仲村 愛子
7	昭53.7月24日・25日・26日	うき彫り かざりつぼ	宮 城 中・玉那覇清徳、島 袋 小・仲村 兼明 屋 良 小・仲嶺 真範、コザ小・森田 政順
8	昭54.8月7日・8日・9日	うき彫り かざりつぼ	島 袋 小・仲村 兼明、コザ小・森田 政順 嘉 数 小・仲嶺 真範
9	昭55.8月2日・4日・5日	うき彫り かざりつぼ	西 原 中・玉那覇清徳、比 嘉 小・仲村 兼明 越 来 小・森田 政順
10	昭56.7月25日・27日・28日	うき彫り かざりつぼ	西 原 中・玉那覇清徳、比 嘉 小・仲村 兼明 中の町小・比嘉 行男

サマースクール日程表

(動物飼育)

昭和56年度

時 間	鳥 獣 類 (動物園)	は 虫 類 (は虫類園)	魚 類 (水族館)	備 考
9:00	1 哺乳類動物の(分類)仲間たちの見分け方(蹄、胃、角) 2 鳥類の仲間のちがい(生活、とび方、ふ化) 3 食肉獣と草食獣との関係	1 は虫類のその種類と特徴について 2 は虫類の仲間と同じところと異っているものについて 3 沖縄のは虫類について	1 魚類やその他水の中の生物について 2 その種類と特徴について 3 水族館のしくみについて 4 水の中の生物の観察について 5 コーラルフイツシュについて	オリエンテーション 各部門別に動物が飼育されている実情と学習の観点を知らせる。
10:00	1 それぞれの哺乳動物の特徴をよく観察する。 2 鳥類の各種のちがい、くちばしやその他をよく観察する。	1 無毒蛇と毒蛇の見分け方 2 は虫類が他の動物と特に異っているところを観察	1 それぞれの魚類、その他の動物の仲間の見分け方 2 魚類の仲間の泳ぎ方をよく観察する。	観 察 学 習
11:00	話し合い(まとめ)	話し合い(まとめ)	話し合い(まとめ)	発表を中心に話し合い
12:00	中 食	中 食	中 食	
13:00	1 動物とのスキンシップ(毛なみ、かたさ、色あい)えさを与える。 (各動物とえさのちがい、えさを食べる順序など) 3 動物舎の保清と管理	1 動物とのスキンシップ 2 ハブとアカマタの見分け方(図説) 3 は虫類の餌の取り方について調べる。 4 蛇の脱皮と皮の見分け方 5 世界のは虫類についても調べる。	1 魚類の給餌の方法と餌の取り方について 2 魚の姿を写生し、その仲間の特徴をとらえる。 3 水の中の生物の飼ひ方、水槽の装置の仕方など(実習)	実 習 1日のまとめをやる自然保護についても話し合う。
15:00	帰途につく	帰途につく	帰途につく。	帰途につく。

標本作製法研修会

沖縄こどもの国は県下で唯一の動物園施設であり、施設内には、水族館、爬虫類園、博物館があり、児童生徒の教育施設として、また、県の野生傷病鳥獣保護の委託を受け、県内で傷付いたり、罹病した野生鳥獣を救護し、治癒した動物は野生に帰したり、飼育したりして県民の動物愛護の保護思想の啓発に努めている。

当園では飼育下の動物で一生を全うして自然死するもの、事故死や病死するもの、保護動物で治療したが治療のかいもなく死んでいった動物などで教育に役立つ動物は剥製にして生きていた姿にもどし博物館で展示して自然科学教育に役立てている。

各種展示会

愛鳥週間に写真展と講演会（昭和48年）

当こどもの国では愛鳥週間にはいった13日に博物館を開放し、「愛鳥写真展」と池原貞雄琉大教授の「愛鳥講演」を行った。博物館には、オオミズナギドリ、アホウドリ、オオコノハズクなど30余点の剥製鳥類と「沖縄野鳥をたずねる会」の協力で愛鳥の生態写真など150点が展示され、日頃野鳥に親しむ機会の少ない都会っ子たちを喜ばせた。

池原教授の講演の中では、「野鳥が住めない環境は人間にとっても生活に適した環境でないことを訴えると共に、小鳥の声を聞き、生態を観察するということは、精神的に安らぎをもたらすことを強調された。

SLの写真展を開く（昭和50年）

明治のオカジョウキで文明開花の花形であった蒸気機関車も時代の趨勢に流され、国鉄の無煙化計画によって、SL機関車が日本列島の鉄道軌道から姿を消すようになった。

当園では教育施設の見地から教育普及活動の一環として下記の日程により、市内の小・中学校の理科担当教師及び希望者に標本作製法の研修会を沖縄市教育委員会と共催で実施いたしました。

実施年月日 昭和48年8月7日・8日・9日

昭和49年8月14日・15日・16日

標本作製 鳥類剥製法、色素注入法

（ウシガエル）葉脈標本作製法

講師 名護高校教諭 友利哲夫

（現在本部高校）

対象 沖縄市内小中学校理科担当教諭及び希望者

「今は山中、今は畑、今は鉄橋渡るとぞ…」や「長いトンネルをぬけるとそこは雪国だった」など、日本人の心層深く刻まれている黒い煙の帯を連らねた汽車を追って、大阪在（豊中市職員）の奥村隆夫氏は、消え去り行くSL車をカメラに納めるため、北海道から鹿児島に至るまで、昭和45年から昭和48年に及んで撮り続けて来た。

その貴重な写真資料であるSL車20枚（全紙）を当こどもの国に展示用として寄贈されたことを機会に、日本人に永年親しみ愛されて来たSL車を今一度みんなの心に呼び戻そうと企画し、博物館にSLの写真展を開きみんなの関心を想起させる。

北海の流氷写真展（昭和53年）

北国においては北海の流氷が早春の近づくのを告げ、長い冬の重苦しさから、ようやく春の兆しを待つ北国の人々の暮らしがあることを知らされる。

北海道網走市教育委員会より、同市在住の西田博氏の作品「流氷のパネル20枚全紙」を沖縄

県教育庁を通じ、教材用展示資料として寄贈されてきました。

これを受け、博物館において北国の流氷写真展を開催し、南国に住む人々にとっては、縁遠い北国の様子であるが、その自然のとりなす迫力のあるドラマを写真を通して展開、参観者の感銘を深める。

国際児童画展開く（昭和54年）

昭和54年は国際児童年として、当園においても児童福祉週間の期間の中で、県、沖縄市と共催による児童フェスティバルを実施。明日を担う子どもたちがよい環境の中で等しく健康に育まれることをアピールすると共に、児童を中心とした催し物を実施した。

日本ユネスコ協会の企画によって、国際児童年にちなんで世界50数カ国の児童の図画作品（127点を博物館に展示し、世界の子どもの作品を通して、それぞれの国がらや風俗習慣が生々と写され好評を博した。

世界の子どもたちが国際紛争や戦争などの犠牲者にならぬよう、これを機会に一人でも多くの人が世界の子どもの将来に目を向けることを希望した作品展でもあった。



米沢市児童生徒の作文展（昭和56年）

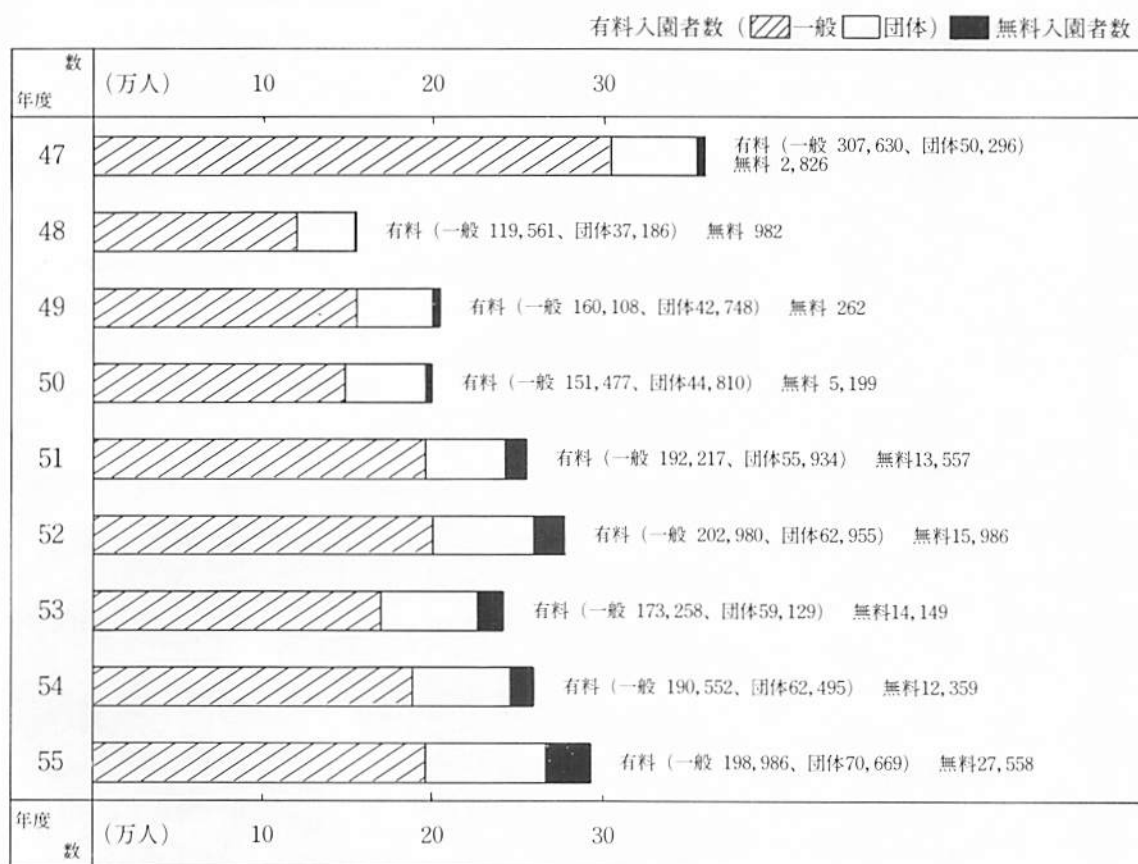
この作文展の企画は、昭和56年3月10日に山形県米沢市内の窪田小学校、板谷小学校、興譲小学校等の児童に対して、同市と交誼の深い上原清善氏（沖縄市在住）が沖縄のサトウキビを

送り、南国の味覚をあげた子どもたちは、上原氏に対しその返礼の便りが寄せられた。

こうした「沖縄の味」を通して民間の人たちによる心の結びつきができ、遠い北国と南国との間に民間交流の芽生えがあって、両市民がこれを契機に交わりを深くし、相互の児童生徒の図画・作文を通して更に幅広い交流をはかろうと企画された作品展が当園の博物館において約4週間実施された。



年度別入園者数の推移



入園料金改訂の推移

種別	改定年月日	47年 5月15日	48年 4月1日	49年 4月1日	50年 4月1日	51年 4月1日	52年 4月1日
	種別						
一般	大人	100	150	200	300	400	500
	中・高校生	70			120	150	250
	小学生	50			80	100	150
	幼児	30			50	50	100
○幼児料金4才以上。							
○団体割引は、25名以上2割引とする。							

年度別遊戯物利用者数

年度	乗馬科	電車	ミニカー	ゴーカート	メリー ゴーランド	その他	計
47	721						721
48	88	26,177	34,700				60,965
49		36,701	47,273				83,974
50		12,853	34,359				47,212
51		69,952	75,486		6,476	11,908	163,822
52		92,562	102,824		83,941	105,629	384,956
53		84,894	106,406		69,225	84,190	344,715
54		85,286	113,506		63,650	75,024	337,466
55		89,099	117,922	169,120	77,485	83,777	537,403
	809	497,524	632,476	169,120	300,777	360,528	1,961,234

年度別遊戯物利用料

年度	乗馬科	電車	ミニカー	ゴーカート	メリー ゴーランド	その他	計
47	72,154						72,154
48	8,850	2,617,780	3,470,092				6,096,722
49		3,670,150	4,727,300				8,397,450
50		1,285,350	3,435,950				4,721,300
51		6,995,200	7,548,643		647,600	1,190,850	16,382,293
52		9,256,200	10,282,450		8,394,120	10,562,900	38,495,670
53		8,489,450	10,640,600		6,922,550	8,419,000	34,471,600
54		8,528,600	11,350,600		6,365,000	7,502,400	33,746,600
55		8,909,950	11,792,200	16,912,095	7,748,550	8,377,750	53,740,545
	81,004	49,752,680	63,247,835	16,912,095	30,077,820	36,052,900	196,124,334

飼育動物数

年 度		50	51	52	53	54	55	56
種 別	科	24	24	24	25	26	29	28
	目	46	48	55	62	61	64	66
	点	219	235	444	272	265	280	257
鳥 類	科	9	10	12	16	19	19	18
	目	40	40	33	47	51	56	58
	点	309	597	433	398	340	359	426
爬 虫 類	科	16	16	18	19	19	19	20
	目	58	62	66	77	78	73	83
	点	379	451	495	540	556	490	893
合 計	科	49	50	54	60	64	67	66
	目	144	150	154	186	190	193	207
	点	907	1,283	1,372	1,210	1,161	1,129	1,576

水族飼育数

数		種類数	魚 数	備 考
区 分	海水	129	2,500	沖縄沿岸魚類
	淡水	37	750	熱帯性淡水魚
爬 虫 類	海水	8	40	ウミガメ、ウミヘビ
	淡水	6	15	ミズヘビ、ワニガメ、他
両 生 類	海水	0	0	
	淡水	2	13	オオサンショウウオ、他
腔腸動物	海水	5	20	イソギンチャク、他
	淡水	0	0	
軟体動物	海水	12	70	貝類、タコ、イカ類
	淡水	0	0	
節足動物	海水	5	35	カブトガニ、ノコギリガサミ、他
	淡水	2	15	ヤシガニ
棘皮動物	海水	21	100	オニヒトデ、カンガゼ、バイカナマコ、他
	淡水	0	0	
合 計		180	3,760	
		47	793	

繁殖動物数

年 度		50	51	52	53	54	55	56	計
種 別	50	49	30	8	9	7	15	5	123
	51	61	22	0	0	1	13	3	100
爬 虫 類	52	0	15	35	45	39	52	54	240
	53	10	67	43	54	47	80	62	463
合 計	54								
	55								

購入動物

種別 年度	哺乳類		鳥類		魚類		ハ虫類		合 計
	数	金 額	数	金 額	数	金 額	数	金 額	
47	8	123,400	0	0		93,874			217,274
48	18	1,266,300	54	538,000		201,000		18,500	2,023,800
49	2	220,000	34	196,850		0			416,850
50	7	3,300,000	0	0		114,000			3,414,000
51	2	1,102,000	2	200,000		1,169,065			2,471,065
52	23	6,817,000	10	1,365,150		2,135,395		5,000	10,322,545
53	3	1,870,000	14	590,000		1,747,950		6,250	4,214,200
54	22	570,000	0	0		2,000,340			2,570,340
55	11	4,760,000	6	920,000		1,200,250			6,880,250
合計	96	20,028,700	120	3,810,000		8,661,874		29,750	32,530,324

水族の採集と購入匹数状況

(昭和52.4～56.10)

区 分 \ 年 度		52	53	54	55	56	合 計
海 水 魚	採 集	2,773	2,496	2,111	4,806	3,964	16,150
	購 入	3,470	5,385	4,695	3,561	773	17,884
淡 水 魚	採 集	224	100	51	0	0	375
	購 入	400	633	218	1,014	454	2,719
そ の 他	採 集	625	256	224	494	229	1,828
	購 入	43	25	34	20	12	134
合 計	採 集	3,622	2,852	2,386	5,300	4,193	18,353
	購 入	3,913	6,043	4,947	4,595	1,239	20,737
比 率 (%)	採 集	48	32	32.5	53.5	79	47
	購 入	52	68	67.5	46.5	21	53

寄贈動物数

種別 \ 年度		50	51	52	53	54	55	56	計
哺乳類		17	3	8	7	4	2	5	46
鳥 類		34	449	2	11	38	4		538
爬虫類			17	41	18	6	20	25	127
		51	469	51	36	48	26	30	711

臨床検査数（原因別）

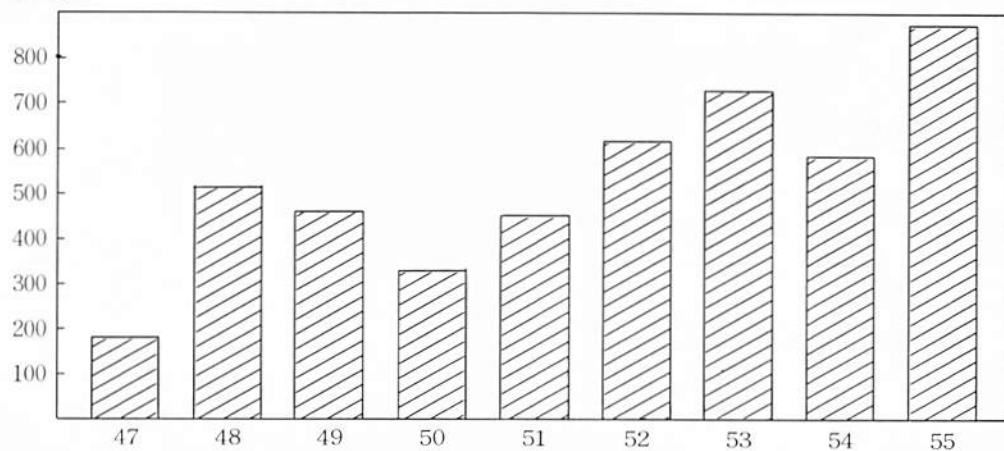
年	区 分	呼吸器	消化器	泌尿生殖器	外 傷	寄生虫	伝染病	其の他	計
50年	哺乳類	1	4	2	6	6	1	1	21
	鳥 類					8			8
51年	哺乳類	1	5	1	3	1			11
	鳥 類				3	3			6
52年	哺乳類	2			3				5
	鳥 類				2				2
53年	哺乳類		2		5		1		8
	鳥 類		3		5	1			9
54年	哺乳類		1		3	2	1	2	9
	鳥 類		2		1	1			4
55年	哺乳類	1	5		2	33			41
	鳥 類		1		2		1		4
56年	哺乳類	1				2	14		17
	鳥 類		3			51			54
	計	6	26	3	35	108	18	3	199

死亡動物（原因別）

年	区 分	呼吸器	消化器	泌尿生殖器	外 傷	寄生虫	伝染病	其の他	計
50年	哺乳類		1		3		1	4	9
	鳥 類				5	2		3	10
51年	哺乳類		1		4		1		10
	鳥 類				5				5
52年	哺乳類	1	1		1		1		4
	鳥 類				1				1
53年	哺乳類		1		2				3
	鳥 類		1		2				3
54年	哺乳類				3	1		1	5
	鳥 類								0
55年	哺乳類							2	2
	鳥 類							2	2
56年	哺乳類				1	1	1	1	4
	鳥 類				2		2		4
	計	1	5		29	4	6	17	62

年度別動物飼料購入金額

単位 1 万円



青草飼料は毎日 1.5人で草を刈る

(1) 収入項目

年度別収入明細

項目 年度	入園料	補助金			寄付金	事業収入	飲 物 テナント料 そ の 他	借入金	合 計
		県補助金	市補助金	その他補助金					
		21,600,000	71,617,320	58,645,440	81,844,920	0	0	0	233,707,680
47	25,740,301	12,500,000	9,273,000	34,670,829	3,079,030	0	1,034,620	0	86,297,780
48	15,619,370	15,710,000	37,200,000	23,067,700	1,539,500	7,055,762	1,838,274	0	102,030,606
49	26,502,510	28,710,000	40,000,000	17,200,000	676,154	10,697,530	3,555,097	0	127,341,291
50	32,231,450	21,943,000	35,000,000	56,380,000	2,777,269	4,721,300	6,068,266	25,000,000	184,121,285
51	61,416,230	44,940,000	30,000,000	55,260,000	1,216,696	18,369,237	8,551,378	34,000,000	253,753,541
52	86,799,220	25,000,000	30,000,000	51,860,000	8,827,540	25,260,302	14,968,418	33,000,000	275,715,480
53	76,630,550	25,000,000	48,000,000	41,200,000	77,695	24,754,050	10,861,414	0	226,523,709
54	82,570,570	41,000,000	35,500,000	10,000,000	1,310,500	25,602,058	11,745,453	45,000,000	252,728,581
55	85,959,110	30,000,000	57,000,000	87,920,000	2,352,917	41,505,301	16,505,440	10,000,000	331,242,768
合計	493,469,311	266,403,000	393,590,320	436,203,969	103,702,221	157,965,540	75,128,360	147,000,000	2,073,462,721

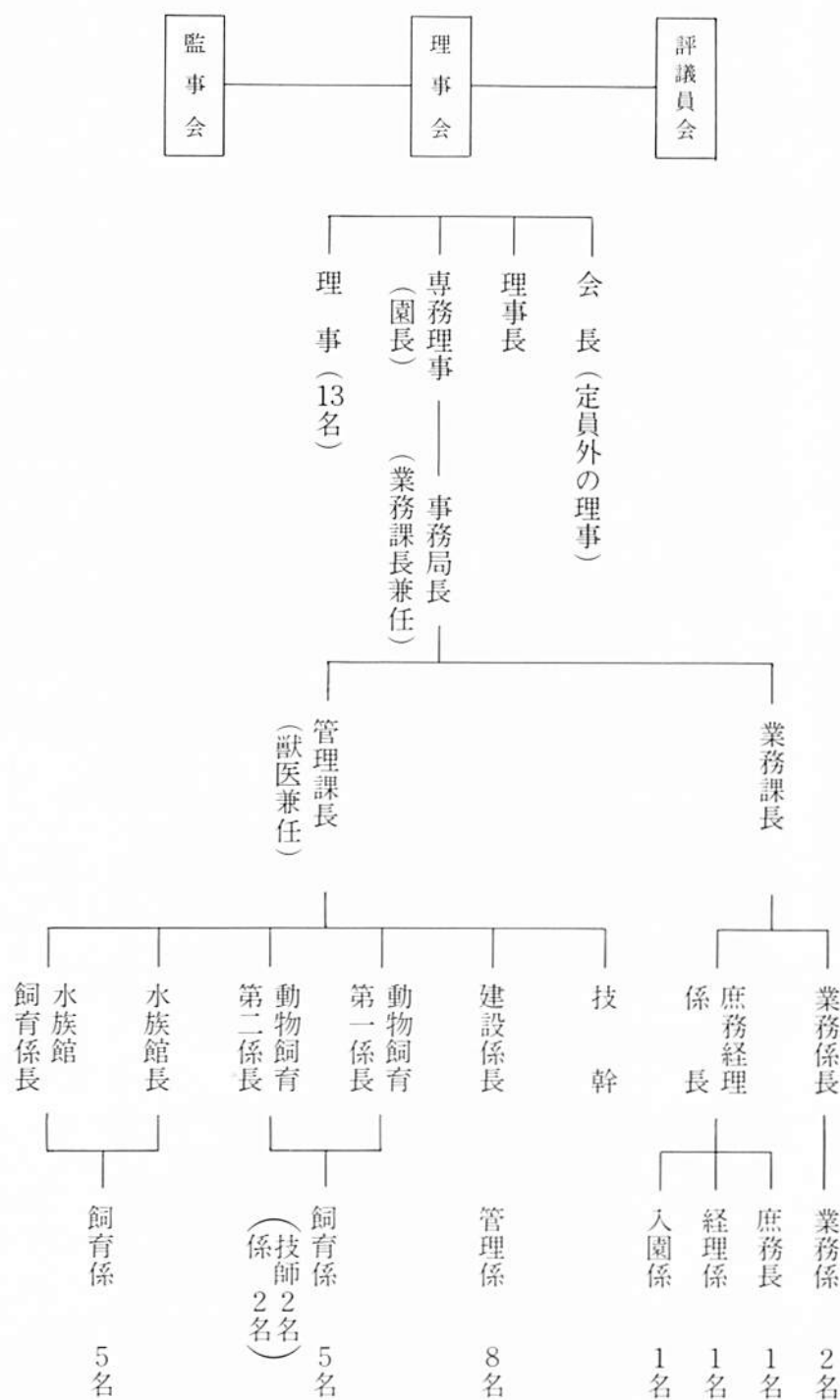
(2) 支出項目

年度別支出明細

項目 年度	事業費	人件費	動物購入費	水道光熱費	動物飼料費	償 還 金 及支払利息	そ の 他 維持経費	合 計
42～46	233,707,680							233,707,680
47	15,606,494	20,369,937	217,274	1,046,929	1,838,188	0	9,134,945	48,213,767
48	46,034,779	39,460,865	2,023,800	1,554,062	5,065,620	0	13,287,970	107,427,096
49	58,175,186	56,100,703	416,850	1,558,296	4,643,395	0	18,349,319	134,243,749
50	108,002,308	61,704,632	3,414,000	3,263,105	3,307,545	1,620,000	23,720,898	205,032,488
51	177,655,523	67,490,173	2,471,065	5,285,048	4,529,100	19,443,779	34,585,715	311,460,403
52	62,622,922	75,974,237	10,322,545	10,293,560	6,059,188	24,699,631	34,763,548	224,735,631
53	78,003,968	91,387,354	4,214,200	10,902,301	7,232,995	18,121,558	31,387,493	241,249,869
54	30,125,484	99,949,408	2,570,340	10,352,495	5,778,940	48,005,946	32,782,216	229,564,829
55	72,567,298	103,222,452	6,880,250	14,600,973	8,774,628	9,011,488	37,653,913	252,711,002
合計	877,501,642	615,659,761	32,530,324	58,856,769	47,229,599	120,902,402	235,666,017	1,988,346,514

- (注) 1. 財団設立以前の投下資金 233,707,680円。
 2. 事業費には沖縄市の寄託財産 32,000,000円を含む。
 3. 昭和51年度、都市災害法による補助金で地汙り地復旧工事施行 (4,450万円)。

組 織 図



業 務 分 掌

職 名	氏 名	分 担 業 務
園 長 事 務 局 長	玉 山 憲 栄 仲宗根 喜 栄	園の総括 総合企画に関すること。 事業計画に関すること。 財政計画及予算に関すること。 契約に関すること。 補助金に関すること。 建設事業に関すること。 財産の管理に関すること。 渉外広報に関すること。 職員に関すること。 施設の維持管理に関すること。 動物に関すること。
業務課 業 務 係 長	嘉手納 永 周	博物館及プールに関すること。 交通広場、乗物等に関すること。
庶務・経理係長	上 地 安 栄	庶務・経理に関すること。 売店に関すること。 窓口業務に関すること。
経 理 係	宮 里 朝 儀	予算・決算に関すること。 物品の購入に関すること。
庶 務 係	照喜名 敏 子	消耗物品の購入、職員給与、職員の服務 厚生に関すること。 文書の発送及収受に関すること。 出勤簿、休暇簿、時間外勤務等に関すること。
〃	久 高 澄 子	入園者の案内、統計に関すること。 文書の作成に関すること。
業 務 係	金 城 珍 一 比 嘉 松 子	交通広場、売店における一切の業務。 博物館入館者の接遇 博物館内の清掃及び美化

職 名	氏 名	分 担 業 務
管理課		
管 理 課 技 幹	安 里 巽 山 内 盛 朝	課の総括（獣医兼任） 園内美化及び植栽に関すること。 施設の整備
建 設 係 長	又 吉 賢 光	建設事業の請負及び契約に関すること。 園内施設の整備及び維持管理に関するこ と。 建設事業の設計及び見積に関すること。
管 理 係 〃 〃 〃	当 山 生 光 当 山 孝 生 譜久山 朝 徳	動物飼料（青草）の収集 施設の維持管理に関すること。 〃 〃
営 繕 係	仲 田 朝 善	車輛の整備、点検、電気設備の維持管理 に関すること。 遊具の整備に関すること。
管 理 係 〃 〃 〃	徳 里 盛 一 前 田 清 栄 与 儀 実 信 首 里 キ ク	施設の維持、管理、補修 〃 〃 植栽に関すること 園内の清掃
飼育第一係長	比 嘉 源 和	猛獣、象、アフリカ園
飼育第二係長	比 嘉 憲 吉	猿舎、熊舎
飼 育 技 師 〃	伊良波 進 嘉手苅 林 俊	鳥 類 猛獣、象、アフリカ園
飼 育 係 〃 〃	比 嘉 稔 島 順 吉 石 野 与 一	オーストラリア園、アジア園 こども牧場 猿 舎、その他 水族館の管理運営に関すること。
水 族 館 長 飼 育 係 長 (水 族)	比 嘉 義 友	水族の飼育に関すること。 採集船に関すること。
館 育 技 師 〃 〃	嘉 陽 宗 昭 喜屋武 章 石 垣 勝 治	水族の飼育に関すること。 アシカの飼育及びショーに関すること。 水族の飼育に関すること。

沖縄こどもの国役員（理事）名簿

役 職 名	氏 名	住 所	関 係 役 職 名
理 事 長	桑 江 朝 幸	沖縄市仲宗根273	沖縄市長
専務理事	玉 山 憲 栄	〃 胡屋326	専務理事（園長）
理 事	大 山 朝 常	〃 胡屋1367	初代理事長
〃	比 嘉 久 富	〃 安慶田27	沖縄市議会議長
〃	親 川 富 蔵	那覇市首里大谷 1-369	沖社協事務局長
〃	西 田 文 光	沖縄市胡屋1338	沖縄市商工会議所会頭
〃	新 崎 盛 直	〃 上地51	沖縄市観光協会会長
〃	山 城 清 輝	〃 〃 145	沖縄市教育長
〃	新 川 秀 清	〃 山内283-2	沖縄市福祉部長
〃	有 銘 政 夫	〃 美里2229	冲教組中頭委員長
〃	吉 田 朝 一	〃 諸見里337	沖縄市観光協会事務局長
〃	城 間 喜 宏	〃 胡屋1025	沖縄県美術家連盟副会長
〃	根路銘 安 弘	〃 安慶田284-2	ライオンズクラブ沖縄市会員
〃	浜比嘉 政 善	〃 胡屋151	ロータリークラブ沖縄市会員
評 議 員	松 村 實	那覇市久米 2-16-16	沖縄タイムス社相談役
〃	伊 集 盛 郎	〃 旭町14（自治会館内）	沖縄県町村長会々長
〃	宮 城 善 兵	〃 識名995	沖縄県交通安全協会会長
〃	鎌 田 静 二	沖縄市胡屋37-5	会社々長
〃	長 浜 弘	那覇市志牧志 2-365	沖縄県バス協会々長
〃	宮 里 定 三	〃 旭町42-1	沖縄県観光連盟会長
〃	比 嘉 貞 信	沖縄市仲宗根町26	沖縄市助役
〃	瑞慶覧 ツ ル	北谷町吉原793-7	元沖縄県中部地区婦連合会々長
〃	喜友名 朝 徳	沖縄市仲宗根町284	沖縄県音楽協会々長
〃	幸 地 光 英	〃 〃 26	沖縄市建設部長
〃	山 元 暁	那覇市松尾 1-1-1	沖縄県旅行業協会々長
〃	長 嶺 彦 昌	〃 松川264	琉球新報社相談役
〃	前 田 盛 繁	沖縄市仲宗根町26	沖縄市助役
監 事	前 田 盛 繁	沖縄市仲宗根町26	沖縄市助役
〃	鎌 田 静 二	〃 胡屋37-5	会社々長
〃	瑞慶覧 ツ ル	北谷町吉原793-7	元沖縄県中部地区婦連合会々長

老人クラブその他の奉仕活動

年 度	奉仕団体名	人 員	合 計	備 考
47年度	レオクラブ	20人		
	コザ市経済民生部	30人		
	市老人クラブ（13団体）	375人	425人	
48年度	社会開発青年奉仕作業	30人		八代学院高校
	市青年会議所	36人		青森県スポーツ少年
	市老人クラブ（1団体）	62人	128人	同記念植樹
49年度	修養団青年奉仕隊	48人		
	市花卉組合	20人		
	コザローターアクト	25人		
	美里中特殊学級	12人		
	T・C奉仕作業	32人		
	修養団奉仕隊	18人		
	天理教奉仕団	35人		
	市老人クラブ（12団体）	382人	572人	
50年度	青年修養団	20人		
	ボーイスカウト	32人		
	市財政部	30人		
	青年会議所	36人		
	沖縄女子学園	25人		
	胡屋、中の町、安ヶ田会	56人		
	天理教少年会	95人		
	ライオンズ奉仕団	30人		
	市老人クラブ（10団体）	334人	658人	
51年度	天理教奉仕団	80人		
	ふるさと観光めぐり			記念植樹

年 度	奉仕団体名	人 員	合 計	備 考
51年度	ライオンズ奉仕団	32人		
	社 会 党	38人		ホテイアオイ除去作業
	市老人クラブ（10団体）	350人	500人	
52年度	青年奉仕隊	16人		
	赤十字奉仕団	40人		
	天理教奉仕団	120人		
	社 会 党	110人		池の除草作業
	天理教少年会	115人		
	市老人クラブ（16団体）	586人	987人	
53年度	青年修養団	27人		
	赤十字奉仕団	40人		
	市老人クラブ（21団体）	742人	769人	
54年度	天理教奉仕団	255人		
	赤十字奉仕団	40人		
	ライオンズ奉仕団	32人		
	青 少 協	50人		
	赤十字奉仕団	40人		
	市老人クラブ（28団体）	905人	1,242人	
55年度	少 年 院	12人		
	市老人クラブ（25団体）	822人	834人	
	赤十字奉仕団	40人		
56年度	少年院奉仕団	9人		
	ボーイスカウト	30人		
	市老人クラブ（14団体）	375人	414人	9月末日現在
	赤十字奉仕団	40人		

開園10周年記念誌

沖縄こどもの国・動物園・水族館

1982年12月10日 発行

編集発行／沖縄こどもの国

沖縄県沖縄市字胡屋831

TEL (09893) ③4190・1870

印刷／栄光堂印刷所

沖縄県沖縄市字比屋根1426

TEL (09893) ③1341(代)

